

令和3年度

シラバス

(講義概要)



土浦協同病院附属看護専門学校

## 目 次

1.教育理念	1
2.カリキュラムの構成要素	2
3.学科進度予定表	3
基礎分野	4～10
専門基礎分野	11～22
専門分野Ⅰ	23～29
専門分野Ⅱ	30～43
統合分野	44～50

## 1.教育理念

1.看護は人間関係を基盤として人間の健康のあらゆる課題に対し、その人が安定した生活を送れるように援助することである。本校は、人間の生命の尊厳と人間愛を根底とし、人々の多様な価値観や行動のあり方を認識し、共感的理解ができる豊かな人間性と倫理観を育成することを目指す。さらに、看護の追究のため、主体的学習を促進継続できる能力を養い、専門職業人として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる看護の実践者を育成する。

### 《教育目的》

看護師として必要な知識および技術を教授し、農協理念に基づき社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

### \*農協理念とは(厚生連理念)

心のかよう医療・保健・老人福祉事業を通じ、組合員ならびに地域住民の暮らしと健康を守り、明るく豊かな地域づくりへの貢献

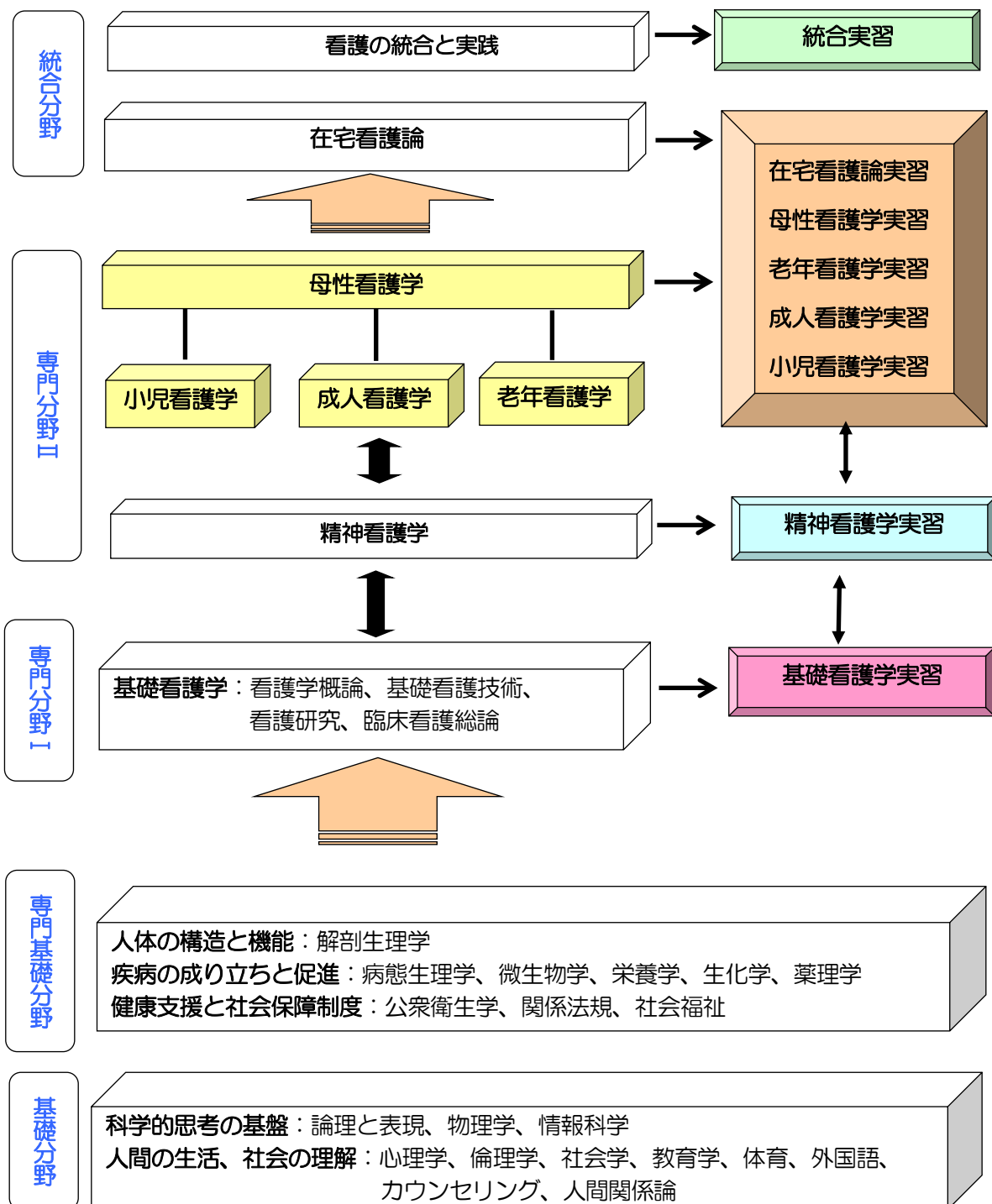
### 《教育目標》

- 1)人間を統合体として理解できる能力を養う。
- 2)人々の健康を自然・社会・文化的環境との相互作用及び心身相関等の観点から理解する能力を養う。
- 3)人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践する能力を養う。さらに、向上心を持って主体的に学習に取り組む能力を養う。
- 4)人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を養う。
- 5)保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、人々が社会資源を活用できるよう調整する能力を養う。

## 2.カリキュラムの構成要素

- (1)人間の理解：成長発達とライフサイクル
- (2)健康の理解：自然・社会・文化的環境との相互作用
- (3)基本的欲求充足への看護の展開
- (4)人間関係
- (5) 保健医療福祉と看護の役割

教育課程の構造図 97単位 (3,000時間)



### 3.学科進度予定表

土浦協同病院附属看護専門学校

本校の授業科目	単位	時間数	1 学 年											2 学 年											3 学 年											
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
基礎分野	論理と表現	1	30	30																																
	物理学	1	15	15																																
	情報科学	1	30												30																					
	心理学	1	30												30																					
	倫理学	1	30												30																					
	社会学	1	30												30																					
	教育学	1	30												30																					
	体育Ⅰ	1	30												30																					
	体育Ⅱ	1	30												30																					
	外国語Ⅰ	1	30												30																					
	外国語Ⅱ	1	30																							30										
	カウンセリング	1	30												30																					
人間関係論	1	30	30																																	
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	30	30																																
	解剖生理学Ⅱ	1	30	30																																
	解剖生理学Ⅲ	1	30	30																																
	解剖生理学Ⅳ	1	30	30																																
	生化学	1	30	30																																
	病態生理学Ⅰ	1	30	30																																
	病態生理学Ⅱ	1	30	30																																
	病態生理学Ⅲ	1	30	30																																
	病態生理学Ⅳ	1	30	30																																
	病態生理学Ⅴ	1	30	30																																
	病態生理学Ⅵ	1	30	30																																
	微生物学	1	30	30																																
	栄養学	1	30	30																																
	薬理学Ⅰ	1	15	15																																
	薬理学Ⅱ	1	30												30																					
	公衆衛生学	2	30																							30										
	関係法規	2	30																							30										
	社会福祉Ⅰ	1	15												15																					
社会福祉Ⅱ	1	15												15																						
専門分野Ⅰ	看護学概論Ⅰ	1	30	30																																
	看護学概論Ⅱ	1	30												30																					
	基礎看護技術Ⅰ	2	90	90																																
	基礎看護技術Ⅱ	2	90	90																																
	基礎看護技術Ⅲ	1	45												45																					
	看護研究Ⅰ	1	15																							15										
	看護研究Ⅱ	1	30																							30										
	臨床看護総論	1	45												45																					
	基礎看護学Ⅰ実習	1	45	45																																
	基礎看護学Ⅱ実習	2	90												90																					
専門分野Ⅱ	成人看護学Ⅰ	2	30												30																					
	成人看護学Ⅱ	2	60												60																					
	成人看護学Ⅲ	1	30												30																					
	成人看護学Ⅳ	1	30												30																					
	老年看護学Ⅰ	2	30												30																					
	老年看護学Ⅱ	2	60												60																					
	小児看護学Ⅰ	2	30												30																					
	小児看護学Ⅱ	2	60												60																					
	母性看護学Ⅰ	2	30												30																					
	母性看護学Ⅱ	2	60												60																					
	精神看護学Ⅰ	2	45	45																																
	精神看護学Ⅱ	1	15												15																					
	精神看護学Ⅲ	1	30												30																					
	成人看護学Ⅰ実習	2	90																							90										
	成人看護学Ⅱ実習	2	90																							90										
	成人看護学Ⅲ実習	2	90																							90										
	老年看護学Ⅰ実習	2	90												90																					
	老年看護学Ⅱ実習	2	90												90																					
小児看護学実習	2	90												90																						
母性看護学実習	2	90												90																						
精神看護学Ⅰ実習	1	45	45																																	
精神看護学Ⅱ実習	1	45												45																						
統合分野	在宅看護論Ⅰ	2	30												30																					
	在宅看護論Ⅱ	2	60												60																					
	チーム医療	1	15																							15										
	医療安全Ⅰ	1	15																							15										
	医療安全Ⅱ	1	30																							30										
	災害看護	1	30																							30										
	在宅看護論実習	2	90																							90										
	統合Ⅰ実習	1	45																							45										
	統合Ⅱ実習	1	45																							45										
	講義実習時間合計	97	3,000	(36単位) 1,095											(37単位) 1,050											(24単位) 855										

## 基礎分野(13 単位 375 時間)

### 1.ねらい

専門基礎分野・専門分野の基礎とし、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き自由で主体的な判断能力を養う。

### 2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年次	項
科学的思考の基盤	論理と表現	1	30	1 年次	5
	物理学	1	15	1 年次	
	情報科学	1	30	1 年次	
人間と生活、社会の理解	心理学	1	30	1 年次	6
	倫理学	1	30	1 年次	
	社会学	1	30	1 年次	7
	教育学	1	30	1 年次	
	体育 I	1	30	1 年次	8
	体育 II	1	30	2 年次	
	外国語 I	1	30	1 年次	9
	外国語 II	1	30	2 年次	
	カウンセリング	1	30	1 年次	
		人間関係論	1	30	1 年次
		13	375		

科目名	論理と表現	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	生越 達	授業形態	講義	
ねらい	すじみちを立てて、物事を考える論理的表現を学ぶ。			
目標	1.思考の概念を理解できる。 2.論理的に言語表現し、文章化できる。			
講義内容 (概要)	1.思考の概念 2.論理的言語表現	1)思考 2)科学的論理的思考 1)論理と言語化 2)論理と文章化	(1)記憶と階層 (1)表現の手段「言語」 (2)論理の構造と表現 (1)思考の道具としての概念 (2)判断の意味と構造	
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	物理学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	吉見 高德	授業形態	講義	
ねらい	物理的諸現象を理解し、日常生活や看護の場面での物理学の考え方を学ぶ。			
目標	1.日常生活と物理学との関係を理解できる。 2.看護と物理学との関係が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.日常生活と物理学との関係 2.看護と物理学との関連	1)力とつりあい 2)摩擦 1)トルク 2)重心と安定性 3)熱の電動と保温 4)酸素ボンベ、低圧持続吸引、サイフォン、オートクレーブ	3)熱 4)圧力	5)音 6)光 5)騒音・超音波 6)紫外線・赤外線 7)放射線
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・新体系看護学全書<基礎分野>物理学、メヂカルフレンド社 *			
備考	実務経験無し			

科目名	情報科学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～後期
講師名	小林 正英、矢川 嵩	授業形態	講義・演習	
ねらい	情報科学の基礎理論を通し、看護情報の処理の方法を学ぶ。			
目標	1.情報科学の基礎を理解できる。 2.看護情報処理の方法を理解できる。 3.コンピューターの科学を医療へ応用する方法を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.情報科学の基礎 2.看護情報処理の方法 3.コンピューターの科学を医療へ応用	1)情報化社会とデータ管理 2)コンピューターと情報処理 3)IT機器の基本操作：word・Excel・Power Point 入門・演習 1)データ分析 2)情報の表現 発信・利用 1)看護支援システム		
評価方法	・筆記試験 ・演習課題提出			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	心理学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～後期
講師名	山本 哲也	授業形態	講義	
ねらい	人間の行動と心の働きの関連性を学び、人間を理解するための基礎とする。			
目標	1.心の働きを理解できる。 2.心と行動の関連性を理解できる。 3.自己や他者の心理や行動を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.心理学とは 2.認知：感覚知覚、記憶・想起、言語、知能、性格(性格検査) 1)感覚・知覚 2)対人認知:初頭効果・親近効果・ハロー効果他 3)記憶:定義、記憶の喪失、分類、プロセス、忘却、変容 3.行動：基本的欲求、学習 4.社会・集団の心理 5.交流分析 6.生涯発達心理学 1)発達の定義、発達段階、発達課題、発達の規定要因 2)胎児期・乳児期・児童期～老年期、終末期			
評価方法	・レポート(性格分析レポート・期末課題レポート)			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	倫理学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	伊藤 益	授業形態	講義	
ねらい	人間の行動欲求の規範となるものへの処理・判断の基礎とする。			
目標	1.生命の尊厳を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.生命の尊厳と科学・技術の発展  2.価値観  3.自己尊重 4.他者尊重	1)学問の誕生と倫理学 2)学問の展開とアリストテレスの学問の分類 3)倫理学としての学問の人間学 4)アリストテレスの人間学 5)現代医療と倫理(脳死判定・安楽死と尊厳死) 1)幸福論、幸福とは何か、快樂とは 2)一般論としての義務		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・伊藤 益；鬱を生きる思想、北樹出版、2012			
備考	実務経験無し			



科目名	社会学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	渡部 治	授業形態	講義	
ねらい	社会学の歴史、現代社会の構造や機能、諸問題を学ぶことにより、個人と社会の関わりを理解する。			
目標	1.社会の構造や機能を理解できる。 2.個人と社会の関連性を理解できる。 3.現代社会の諸問題お理解し、自己の生き方に反映できる。			
講義内容 (概要)	1.社会と集団 1)社会学の思想家たち－19世紀を中心として(コント、マルクス 等) 2)社会学におけるものの見方－「集団」の分類、理解 3)社会的病理と「逸脱」行動の事例研究： 犯罪、自殺、虐待、種々の依存症等の社会学的症例研究 2.戦後日本社会の構造と歴史 1)戦後の荒廃から復興の過程 2)特に90年代からの日本人の生活意識の変容 3.地域社会と都市化 1)都市の歴史　・古代都市と近代都市の相違 2)都市化とコミュニティの再生 4.伝統的日本社会論とサイクルの問題 1)日本人の伝統的人間観　・社会観の問題－特に外国から見た日本社会論 2)モロトリアム人間論　・現代における青年の問題 3)変容するライフサイクル 5.国際社会の中の日本			
評価方法	・筆記試験　・レポート(ミニ・レポートを2回実施)			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	・途中、講義要約を複数回、配布するので、ノートに添付して、ノートをしっかりと作成する。 ・試験の時に必要となる。試験は事柄の正確な理解とともに、自己の思考力を求める。  実務経験無し			

科目名	教育学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	本田 辰雄	授業形態	講義	
ねらい	教育原理を学び、看護実践の基礎とする。			
目標	1.人間の成長と教育の意義を理解できる。 2.生涯にわたる教育、学習の意義を理解できる。 3.教育の目的、方法を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.人間と成長と教育の意義 1)教育制度の問題点 2)教育の目的 3)教師の仕事とは何か 4)看護と教育　*グループワーク 2.家庭教育 1)子どもを取り巻く現状「子どもの学力」「食育」・・・ 3.生涯学習 1)教育問題を理解しその解決方法を探る 2)現代教育と教育思想 4.学習指導 5.生活指導 6.教育評価			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	体育Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	宮澤 優士	授業形態	講義、実技	
ねらい	運動と健康の関連性を学び、心身ともに健全な発達を養う。			
目標	1.運動と健康の関連性を理解できる。 2.スポーツを通し、健康の保持、体力の維持の必要性を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.運動と健康の関連性 1)運動と健康 2)栄養とスポーツ(運動) 3)障害者スポーツ論	2.実技 1)バレーボール 3)バスケットボール	2)バドミントン 4)ストレッチ 等	
評価方法	・筆記試験 ・出席時間及び授業参加状況			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	体育Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次前期
講師名	宮澤 武	授業形態	講義、実技	
ねらい	運動と健康の関連性を学び、心身ともに健全な発達を養う。			
目標	1.運動と健康の関連性を理解できる。 2.スポーツを通し、健康の保持、体力の維持の必要性を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.運動と社会 1)スポーツ社会学 2)健康政策論 3)看護教育(障害児教育)とスポーツ	2.実技 1)バレーボール 3)バスケットボール	2)バドミントン 4)ストレッチ 等	
評価方法	・筆記試験 ・出席時間及び授業参加状況			
使用テキスト	・使用しない(資料配布)			
備考	実務経験無し			

科目名	外国語Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	中川 武	授業形態	講義、演習	
ねらい	国際社会に対応できる能力を養う。			
目標	1.日常生活に必要な英会話ができる。			
講義内容 (概要)	1.Unit 1 来院；翻訳、発音練習、演習 2.Unit 2 初診受付；翻訳、発音練習、演習 3.Unit 3 生活習慣を聞く；翻訳、発音練習、演習 4.Unit 4 問診(1)；翻訳、発音練習、演習 5.Unit 5 脈拍・血圧・体重測定；翻訳、発音練習、演習 6.Unit 6 採血・採尿；翻訳、発音練習、演習 7.Unit 7 診断(1)；翻訳、発音練習、演習			
評価方法	・筆記試験(小テスト・最終試験) ・出席時間及び授業参加状況 ・授業ノート			
使用テキスト	・樋口晶彦：「First Aid! English for Nursing」看護英語への総合的アプローチ、金星堂出版、2015			
備考	実務経験無し			

科目名	外国語Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次後期
講師名	君塚 貴久	授業形態	講義、演習	
ねらい	国際社会に対応できる能力を養う。			
目標	1.看護に必要な医学用語を読むこと・書くことができる。			
講義内容 (概要)	1. Unit 8 問診(2)；翻訳、発音練習、演習 2. Unit 9 症状をより詳しく聞く；翻訳、発音練習、演習 3. Unit 10 診断(2)；翻訳、発音練習、演習 4. Unit 11 薬の説明；翻訳、発音練習、演習 5. Unit 12 問診(3)；翻訳、発音練習、演習 6. Unit 13 MRIを受ける；翻訳、発音練習、演習			
評価方法	・筆記試験 ・発表 ・課題			
使用テキスト	・樋口晶彦：「First Aid! English for Nursing」看護英語への総合的アプローチ、金星堂出版、2015			
備考	実務経験無し			

科目名	カウンセリング	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	福井 晴邦、加地 一貴	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な対人関係における感性を養う。			
目標	1.対人関係・コミュニケーションの取り方を理解できる。 2.カウンセリングの基本的な知識や態度を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.カウンセリングとは  2.カウンセリングの諸理論  3.こころの健康(主な心理的問題)  4.自分をより深く理解する  5.傾聴とは  6.かかわりの築き方	・カウンセリングの定義と効果 ・基本的なカウンセリング・アプローチ ・看護とカウンセリング ・精神力動的アプローチ ・認知行動論的アプローチ ・来談者中心的アプローチ ・こころの健康の考え方 ・代表的なこころの病：気分障害、不安障害、発達障害、接触障害、依存症 等 ・カウンセリングのために必要な自己理解 ・自己理解のためのワーク ・傾聴の定義と効果 ・傾聴の基本的な態度と技法 ・傾聴のためのワーク ・カウンセリングに必要なかかわりとは ・かかわりの態度と技法のためのワーク		
評価方法				
使用テキスト	・課題レポート			
備考	・諸富祥彦 [編]：人生にいかすカウンセリング、有斐閣アルマ、2011 ・より発展的に学びたい際の参考書としては 玉瀬耕治：カウンセリングの技法を学ぶ。有斐閣  実務経験無し			

科目名	人間関係論	単位数	時間	履修年次	
		1	30	1年次前期	
講師名	長谷 静香	授業形態	講義		
ねらい	人間関係の構造を実践的に学び、看護師としての人間的素養を高め、看護の対象を理解する基礎とする。				
目標	1.人間関係の基本を哲学的、心理学的な側面から実践的に理解できる。 2.看護の対象としての人間関係を理解し、自己の問題とすることができる。				
講義内容 (概要)	1.人間関係  2.コミュニケーション  3.グループダイナミクス  4.カウンセリング  5.ソーシャルサポート	1)人間存在の本質、固有性 2)トラベルビー、ブーバーの人間関係についての考え方 3)基本的人間観の理解 4)人間関係を築く面接技法 5)援助のための積極的技法  1)コミュニケーションの構造 2)パーソナルコミュニケーションの意味 3)援助的コミュニケーションの意味  1)人間関係についての社会心理学的知見 2)家族の人間関係と看護師の関わり 3)家族ダイナミクスについて  1)カウンセリングの基礎認識、方法論 2)対他的表現の読み取り方等  1)ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク 2)ノーマライゼーションと援助 3)エンパワーメントのもつ意味			
評価方法	・筆記試験 ・レポート(ミニ・レポートを二回実施)				
使用テキスト	・岩井 俊憲、長谷 静香；看護師のためのアドラー心理学、日本医療企画、2017 ・長谷 静香；看護師のためのアドラー流子育て・自分育て、日本医療企画、2018				
備考	・実務経験無し ・テキストの機械的理解でなく、テキストの表現を実践派としての立場から主体的に読んでゆくという姿勢を求める  実務経験無し				

## 専門基礎分野(21 単位 525 時間)

### 1.ねらい

人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を養う。

### 2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年次	項
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1年次	12
	解剖生理学Ⅱ	1	30	1年次	
	解剖生理学Ⅲ	1	30	1年次	13
	解剖生理学Ⅳ	1	30	1年次	
	生化学	1	30	1年次	14
疾病の成り立ちと回復の促進	病態生理学Ⅰ	1	30	1年次	
	病態生理学Ⅱ	1	30	1年次	15
	病態生理学Ⅲ	1	30	1年次	16
	病態生理学Ⅳ	1	30	1年次	
	病態生理学Ⅴ	1	30	1年次	17
	病態生理学Ⅵ	1	30	1年次	18
	微生物学	1	30	1年次	
	栄養学	1	30	1年次	19
	薬理学Ⅰ	1	15	1年次	
	薬理学Ⅱ	1	30	2年次	20
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	2	30	3年次	
	関係法規	2	30	3年次	21
	社会福祉Ⅰ	1	15	2年次	22
	社会福祉Ⅱ	1	15	2年次	
		21	525		

科目名	解剖生理学Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	高柳 真里子	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。			
目標	1.人体の正常な構造と機能が理解できる。 2.体を支え動かす仕組みと情報伝達する仕組みについて理解できる。			
講義内容 (概要)	1.人体の構造と機能  2.体の支持と運動【運動器系】  3.情報の受容と処理【脳・神経系】	1)細胞 2)組織 3)靭帯 4)ホメオスタシス 5)生体の防御機構 6)体温とその調節：体熱の生産と放散・発汗 7)生体の防御機構：生体表面での防御機構、皮膚・胸腺・脾臓・リンパ節、免疫  1)骨の構造と機能 2)骨格 3)関節(構造・種類) 4)骨格筋：構造、筋収縮の機構  5)随意筋・不随意筋 6)内部情報の処理：内部情報の受容体と認識骨格筋の神経支配	(1)抗重力筋・呼吸筋 (2)四肢の筋；上肢・下肢 (3)表情筋 (4)頭部、頸部の筋	1)神経組織：神経細胞と情報伝達・神経細胞 2)中枢神経系の構造と機能：大脳、間脳、脳幹、小脳、脊髄、中枢神経系を保護する組織 3)末梢神経系：脳神経、脊髄神経系と神経叢、体性神経系、自律神経系
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	なし			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	磯辺 真希子	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。			
目標	1.呼吸と血液の循環について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.呼吸の働き【呼吸器系】  2.血液の働き【血液・造血器系】  3.血液の循環とその調節【循環器系】	1)呼吸器の構造：上気道、下気道、胸膜、縦隔 2)呼吸：肺気量、外呼吸と内呼吸、ガス分圧、酸素の運搬、二酸化炭素の運搬 3)呼吸中枢 4)呼吸に影響を与える因子  1)血液の働き 2)血液の物理化学的特性 3)血液の成分 4)造血  1)心臓の構造 2)心臓の拍出機能：刺激伝導系、心電図、心臓の収縮 3)末梢循環系の構造：血管の構造、肺循環、体循環、動脈系、静脈系 4)血管の機能：血圧とその調整、物質交代	5)凝固と線溶 6)血液型 7)リンパとリンパ管	
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	なし			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	高柳 真里子	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。			
目標	1.栄養の消化と吸収および内部環境を整える仕組みについて理解できる。			
講義内容 (概要)	1.栄養の消化と吸収 [消化器系]  2.内臓機能の調節 [内分泌系]	1)口・咽頭・食道の構造と機能 2)腹部消化管の構造と機能 3)膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4)腹膜 1)自律神経による調整 2)内分泌器官の構造とホルモンの機構 視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副甲状腺、膵島、 中枢神経系を保護する組織、副腎髄質、副腎皮質、消化管ホルモン、 腎臓のホルモン、性腺ホルモン、内分泌による調整 3)全身の内分泌線と内分泌細胞 4)ホルモン分泌の調整： 調整ホルモン・拮抗ホルモン、フィードバック機構 5)ホルモンによる調整の実際		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	なし			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	解剖生理学Ⅳ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	磯辺 真希子	授業形態	講義	
ねらい	看護に必要な人体の構造と機能、生命活動を日常生活の視点から捉え学ぶ。			
目標	1.体液の調整と尿の生成について理解できる。 2.感覚器系について理解できる。 3.生殖・発生に関する機構について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.体液の調整と尿の生成 [腎・泌尿器系] 1)尿の生成：腎臓の構造・濾過・再吸収・分泌 2)細胞外液の調整：抗利尿ホルモンの作用、レニンアンジオテンシン、アルドステロイド系 3)排尿：膀胱の構造と神経支配・尿道の構造と神経支配 2.感覚器系の構造と機能 [感覚器系：眼・耳・鼻・皮膚] 1)視覚：目の構造・視覚の伝達路と認識・眼球運動・眼球に関する反射 2)聴覚と平衡覚：耳の構造・平衡覚・聴覚 3)嗅覚：嗅覚受容器の構造と嗅覚 4)味覚受容器の構造と味覚 5)皮膚の構造と機能：感覚受容器・皮膚感覚の種類 3.生殖・発生に関する機構 [生殖器系] 1)男性生殖器の構造、精子の形成 2)女性生殖器系の構造、性周期、妊娠・分娩・産褥			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	なし			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	生化学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	白岩 雅和	授業形態	講義	
ねらい	生体内で営まれている現象を理解する。			
目標	1.人体内部における化学変化や物質代謝を学び、生命現象について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.生体の成り立ち <ul style="list-style-type: none"> <li>1)原子から個体まで</li> <li>2)細胞の機能</li> </ul> 2.生命維持に必要な栄養素の構造と性質 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)糖質と脂質</li> <li>2)アミノ酸とタンパク質</li> <li>3)核酸とヌクレオチド</li> <li>4)ビタミン(概論・各論)</li> </ul> 3.生体内の物質代謝 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)代謝とは</li> <li>2)酵素、ビタミンと補酵素、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質とアミノ酸の代謝、核酸・ヌクレオチドの代謝、エネルギー代謝の統合と制御</li> </ul> 4.遺伝情報			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・人体の構造と機能② 臨床生化学、メディカ出版、2018			
備考	実務経験無し			

科目名	病態生理学 I	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	渡部 誠一、森耕一、山田 雅人、 浅野 宏規、盛山 吉弘	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1.病因と病態の特徴が理解できる。 2.感覚器の疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.疾病の成り立ち <ul style="list-style-type: none"> <li>1)生体の反応と疾病の機構：内的・外的誘因、公害病・医原病・職業病</li> <li>2)病理と病態生理：ホメオスタシス、疾病の分類、症状、徴候、症候</li> </ul> 2.細胞・組織の障害と修復 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)細胞の損傷と適応</li> <li>2)組織の修復と創傷治癒</li> </ul> 3.循環障害 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)浮腫(水腫)</li> <li>2)充血とうっ血</li> <li>3)血栓症</li> <li>4)塞栓症</li> <li>5)虚血と梗塞</li> </ul> 4.炎症と免疫、移植と再生医療 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)炎症とその分類 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)炎症とは</li> <li>(2)炎症の各型</li> </ul> </li> <li>2)免疫と免疫不全 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)免疫に関与する細胞</li> <li>(2)液性免疫と細胞性免疫</li> <li>(3)免疫不全症</li> </ul> </li> <li>3)移植と再生医療 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)移植と拒絶反応</li> <li>(2)臓器移植</li> <li>(3)再生医療</li> </ul> </li> </ul>			
	5.老化と死 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)個体の老化と老年症候群</li> <li>2)個体の死 (1)死の判定と死因の究明</li> </ul> 6.先天異常と遺伝子異常 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)遺伝子異常と染色体異常</li> </ul> 7.腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)腫瘍の定義と分類</li> <li>2)悪性腫瘍の広がり</li> <li>3)腫瘍の診断と治療</li> <li>4)放射線療法</li> </ul> 8.感覚器系の症状、治療、検査 [眼] <ul style="list-style-type: none"> <li>1)疾患：緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、結膜炎</li> <li>2)症状：視力障害、眼脂、充血、視野欠損(異常)、飛蚊症</li> <li>3)治療：薬物療法(点眼、眼軟膏)、手術療法</li> <li>4)検査：視力検査、眼底検査、視野検査、眼圧検査</li> </ul>			



講義内容 (概要)	[耳鼻咽喉] 1)疾患：中耳炎、突発性難聴、副鼻腔炎、扁桃炎、舌癌、咽頭がん、喉頭がん 2)症状：難聴、めまい、耳鳴、耳痛、咽頭痛、頸部腫脹 3)治療：手術療法、薬物療法(ネブライザー、洗浄) 4)検査：内視鏡検査、聴覚検査、画像(X線、CT、MRI)
	[皮膚] 1)疾患：接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、帯状疱疹、熱傷 2)症状：掻痒感、発疹、水泡、痂皮 3)治療：薬物療法(外用、内服)、手術療法、放射線療法 4)検査：アレルギー性検査、顕微鏡検査
評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・村村浩一：よくわかる病理学の基本としくみ、秀和システム、2011 ・編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有

科目名	病態生理学Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	白坂 二郎、山本 信二、町田 明	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1.運動器・脳神経系疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.運動器疾患の症状、治療、検査 1)疾患：骨折(開放骨折、閉鎖骨折、粉碎骨折)、脊椎・脊髄(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、 脊髄損傷)肩関節周囲炎、変形性関節症、骨腫瘍、末梢神経障害 2)症状：疼痛、関節の変形、機能障害、運動麻痺、知覚障害、筋力低下 3)治療：保存的療法(ギプス固定、牽引療法等)、手術療法(人工関節)理学療法、作業療法、 放射線療法、義肢と装具 4)検査：視診、触診、四肢計測、関節可動域、筋力、神経学的所見、画像(単純 X 線検査、CT、 MRI)、 造影法(脊髄造影) 2.脳神経疾患の症状、治療、検査 [脳神経外科] 1)疾患：脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜外血腫)、脳腫瘍、水頭症 2)症状：運動系の症候(麻痺、筋力低下、など)、感覚障害、脳神経の症候、高次脳機能障害、意 識障害、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、頭痛、けいれん 3)治療：手術療法(開頭術、穿頭術、シャント術)、薬物療法、放射線療法 4)検査：神経学的検査、画像(頭部 X 線、CT、MRI・MRA)、脳血管撮影 [神経内科] 1)疾患：神経変性(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、アルツハイマー病)、 筋委縮性側索硬化症(ALS)、中枢神経(多発性硬化症)、てんかん 末梢神経(ギラン・バレー症候群)、重症筋無力症、神経系(髄膜炎) 2)症状：運動系の症候(錐体外路症状、麻痺、筋力低下、など)、感覚障害、 自律神経系の症候、脳神経の症候、意識障害、頭痛、けいれん 3)治療：薬物療法、ステロイドパルス療法 4)検査：運動系の症候(錐体外路症状、麻痺、筋力低下、など)、感覚障害、 自律神経系の症候、脳神経の症候、意識障害、頭痛、けいれん、 神経学的検査(脳波)、髄液検査、画像(頭部 X 線、CT、MRI・MRA)			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017			
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有			

科目名	病態生理学Ⅲ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～後期
講師名	齊藤 和人、鴨下 昌晴	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1.呼吸器系、血液・造血器疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容(概要)	<p>1.呼吸器系疾患の症状、治療、検査</p> <p>1)疾患：呼吸器感染症(肺炎、肺結核、肺真菌症)、アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、その他)、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、換気異常、胸膜疾患</p> <p>2)症状：咳嗽、喀痰、血痰、咯血、胸痛、呼吸困難、その他(喘鳴、チアノーゼ、胸水)</p> <p>3)治療：酸素療法、人工呼吸管理、化学療法、吸入、手術療法、放射線療法</p> <p>4)検査：喀痰検査、動脈血ガス分析、呼吸機能検査、画像(胸部X線、胸部CT、MRI)、気管支内視鏡検査、肺生検</p> <p>2.血液・造血器疾患の症状、治療、検査</p> <p>1)疾患：赤血球(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血)、白血球(白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)、出血性(特発性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群)</p> <p>2)症状：貧血、発熱、出血傾向、息切れ、頻脈、皮膚蒼白、リンパ節腫脹</p> <p>3)治療：輸血療法、化学療法、造血幹細胞移植、薬物療法(副腎皮質ステロイド療法)、骨髄移植</p> <p>4)検査：血液検査、骨髄検査、止血機構の検査、リンパ節生検、画像(CT、MRI)</p>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・(編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017			
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有			

科目名	病態生理学Ⅳ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～後期
講師名	花田 幸代、渡部 誠一、梅田 直人	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1.循環器系、膠原病・アレルギー・感染症疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容(概要)	<p>1.循環器系疾患の症状、治療、検査</p> <p>1)疾患：心不全、不整脈、虚血性心疾患(狭心症、急性心筋梗塞)心筋疾患(拡張型心筋症、心筋炎、心膜炎)、心臓弁膜症、高血圧症、動脈疾患(大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症)、静脈疾患(静脈瘤)</p> <p>2)症状：胸痛、胸部圧迫感、動悸、呼吸困難、浮腫、ショック</p> <p>3)治療：生活習慣の修正、薬物療法、経皮的冠状動脈、インターベンション、ペースメーカー治療、外科療法、酸素療法、安静療法</p> <p>4)検査：心電図(12誘導、運動負荷、ホルター)、画像(胸部X線、胸部CT、MRI)、心エコー、心臓カテーテル検査</p> <p>2.膠原病、アレルギー、感染症疾患の症状、治療、検査</p> <p>[アレルギー]</p> <p>1)疾患：薬物アレルギー、アナフィラキシー、花粉症薬物アレルギー、アナフィラキシー、花粉</p> <p>2)症状：鼻閉、喘鳴、眼の充血、掻痒・皮疹、発疹、レイノー現象</p> <p>3)治療：薬物療法、減感作療法、救急救命処置</p> <p>4)検査：血液検査、スキンテスト</p> <p>[感染症]</p> <p>1)疾患：細菌(マイコプラズマ肺炎、食中毒、腸管出血性大腸菌感染症)、真菌(カンジタ症)、ウイルス(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、ノロウイルス感染症、インフルエンザ)</p> <p>2)症状：発熱、発疹、髄膜刺激症状、腹痛、頭痛・意識障害、悪寒・戦りつ</p> <p>3)治療：ワクチン、抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)、抗ウイルス薬、人免疫血清グロブリン</p> <p>4)検査：培養検査、抗体検査、血液検査、尿検査、塗沫・鏡検査、CT、MRI</p>			

講義内容 (概要)	<p>[膠原病]</p> <p>1)疾患：全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ、多発性筋炎、ベーチェット病、シェーグレン症候群</p> <p>2)症状：関節痛・関節炎、皮疹、筋痛・筋力低下・筋炎、レイノー現象</p> <p>3)治療：薬物療法、血漿交換療法、理学療法</p> <p>4)検査：血液検査、自己抗体検査、組織検査</p>
評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017 ・国家試験対策 パーフェクト必修、メヂカルフレンド社
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有

科目名	病態生理学V	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	草野 史彦、清水 馨	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1.消化器系、内分泌系疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容 (概要)	<p>1.消化器系疾患の症状、治療、検査</p> <p>[肝・胆・膵]</p> <p>1)疾患：肝臓(肝炎、肝硬変、肝臓がん、間脈圧亢進症)、胆道(胆石症、胆道腫瘍)、膵(膵炎、膵腫瘍)</p> <p>2)症状：腹痛、黄疸、悪心・嘔吐、肝・脾腫、胆嚢腫大、腹水、浮腫、肝性昏睡</p> <p>3)治療：薬物療法、手術療法、胆道ドレナージ、腹腔鏡下手術、外科手術</p> <p>4)検査：血液検査、腹部 CT、MRI、腹部超音波検査、腹腔鏡検査、肝生検、血管造影、肝シンチグラフィ</p> <p>[その他消化管]</p> <p>1)疾患：食道(胃・食道逆流症、食道静脈瘤)、胃・十二指腸(胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃がん)大腸(潰瘍性大腸炎、虚血性大腸炎、大腸がん、腸閉塞)、肛門(痔核、痔瘻)</p> <p>2)症状：胸やけ、腹痛、悪心・嘔吐、便秘異常(下痢・便秘)、貧血、吐血、下血</p> <p>3)治療：化学療法、食事療法特殊治療(経皮胆管ドレナージ、S-Bチューブ、PEIT等)</p> <p>4)検査：画像(腹部単純X線、上部消化管造影、小腸造影、大腸造影)、内視鏡検査(上部消化管、大腸)、腹部CT、MRI、腹部超音波検査、便潜血、血液検査</p> <p>2.内分泌系疾患の症状、治療、検査</p> <p>[内分泌]</p> <p>1)疾患：視床下部・下垂体(下垂体腫瘍、下垂体前葉機能低下症、尿崩症)甲状腺(バセドウ病、甲状腺機能低下症、甲状腺腫瘍)副甲状腺、副腎(クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、アジソン病)</p> <p>2)症状：低身長、高身長、肥満、やせ、顔貌変化、女性化乳房、多尿</p> <p>3)治療：ホルモン補充療法、分泌腺腫瘍の外科、放射線療法、薬物療法</p> <p>4)検査：ホルモン血中濃度、内分泌検査、画像(超音波検査、MRI、CT、シンチグラフィ)、遺伝子検査</p> <p>[代謝]</p> <p>1)疾患：糖尿病、低血糖症、メタボリックシンドローム、骨粗鬆症、脂質異常症</p> <p>2)症状：口渇・多飲・多尿、体重減少、体重増加、肥満、意識障害、冷汗、皮膚症状</p> <p>3)治療：栄養管理(食事療法)、薬物療法、運動療法、手術療法(腫瘍摘出術、部分切除術)</p> <p>4)検査：血糖、インスリン(負荷試験:インスリン分泌機能の評価)、インスリン抵抗性(インスリン抵抗性)の評価、Cペプチド、血清脂質、尿酸値、血清カルシウム</p>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017			
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有			

科目名	病態生理学VI	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	戸田 孝之、川野 圭三、島袋 剛二、関 知子	授業形態	講義	
ねらい	病気の成り立ちと身体内での病的変化を学ばせ看護に必要な総合的(基礎的)知識を学ぶ。			
目標	1. 腎泌尿器、女性・男性生殖器疾患の症状・治療・検査が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.腎疾患の症状、治療、検査 1)疾患：慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎不全 2)症状：タンパク尿、血尿、浮腫、高血圧、発熱、尿量異常、尿毒症症状 3)治療：透析療法(腹膜透析、血液透析)、腎移植、安静療法、食事療法、薬物療法 4)検査：尿検査、腎機能検査、腎生検、血液検査 2.泌尿器疾患の症状、治療、検査 1)疾患：腎盂腎炎、尿路結石症、前立腺肥大症、前立腺がん、腎がん、精巣腫瘍 2)症状：血尿、排尿障害、疼痛(仙痛) 3)治療：手術療法(腫瘍摘出術、TUR)、薬物療法、安静療法 4)検査：血液検査、尿検査、生検、CT、MRI、経尿道的検査、核医学的診断法 3.女性生殖器疾患の症状、治療、検査 1)疾患：月経困難症、子宮内膜症、子宮がん、卵巣腫瘍、性感染症 2)症状：出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満・膨隆感、自律神経症状、不定愁訴 3)治療：手術療法、薬物療法、膣洗浄、腹腔穿刺 4)検査：膣鏡検査、直腸診、細胞診、腫瘍マーカー、内視鏡検査、画像(超音波検査法、CT、MRI、PET、子宮卵管造影法等) 4.乳房疾患の症状、治療、検査 1)疾患：乳がん、乳腺炎 2)症状：腫瘤触知、えくぼ症状、疼痛、腫脹、リンパ浮腫 3)治療：手術療法、化学療法、放射線療法 4)検査：腫瘍マーカー、マンモグラフィ、CT、MRI			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・編)浅野嘉信、吉山直樹：看護のための臨床病理学、南山堂、2017			
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務、看護業務経験有			

科目名	微生物学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期
講師名	渡部 誠一、白井 謙太郎	授業形態	講義	
ねらい	微生物の特徴とそれらが生体に及ぼす影響を理解する。			
目標	1.微生物の特徴を理解できる。 2.微生物の感染メカニズムとその解決策を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.微生物の特徴 1)微生物の種類と特徴(細菌、真菌、原虫、ウイルス) 2.感染とその防御 1)感染と感染症 2)感染に対する生体防御機構：免疫、感染源・感染経路、滅菌と消毒、検査と診断 3.主な病原微生物 1)病原細菌と細菌感染症： グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、クラミジア 2)病原真菌と真菌感染症 3)病原原虫と原虫感染症 4.主なウイルスとウイルス感染症 1)DNA ウイルス：ヘルペスウイルス、アデノウイルス等 2)RNA ウイルス：インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RS ウイルス、エボラウイルス、ポリオウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス等 3)肝炎ウイルス：A型B型・C型・D型・E型			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・増澤 俊幸；感染防御の基本がわかる微生物学・免疫学、羊土社、2020			
備考	実務経験有：医療機関にて診療業務経験有			

科目名	栄養学	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次後期
講師名	唯根 理子	授業形態	講義	
ねらい	健康と栄養の関係を理解するために必要な栄養に関する基礎的知識を学ぶ。			
目標	1.生体の正常な営みに必要な栄養と臨床栄養の考え方を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.生体の正常な営みに必要な栄養と臨床栄養の考え方 1)栄養素の種類とはたらき：糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル 2)三大栄養素の消化と栄養素の吸収・代謝 3)エネルギー代謝・消費 4)食事と食品(食文化) 5)栄養ケアマネジメント 6)栄養状態の評価・判定 7)ライフステージと栄養 2.臨床栄養 1)栄養補給法(経腸栄養法・静脈栄養法) *経腸栄養製品 2)病院食 3)疾患・症状別食事療法の実際 循環器疾患、消化管疾患、栄養・代謝疾患、腎臓疾患、血液疾患、食物アレルギー疾患、骨粗鬆症患者、咀嚼・嚥下障害患者 4)健康づくりと食生活			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学、医学書院、2020* ・<別巻>栄養食事療法、医学書院、2020			
備考	実務経験有：医療機関にて栄養管理業務経験有			

科目名	薬理学 I	単位数	時間	履修年次
		1	15	1年次後期
講師名	堀越 建一	授業形態	講義	
ねらい	薬物の作用・副作用と医薬品の管理を理解する。			
目標	1.薬物の特徴・作用機序・人体への影響を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.薬物に関する基礎知識  2.生体機能と薬  3.小児・妊婦・授乳婦・高齢者の薬物療法	1)薬物療法の目的 2)薬物の投与量と安全性 3)薬物アレルギーと特異体質 4)薬物有害作用 5)薬の処方・剤形、調剤 6)薬と法律：医薬品の管理 1)薬の体内運命と薬効：投与経路と吸収、血中薬物濃 2)薬物の相互作用		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・新体系看護学全書 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学、メジカルフレンド社、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にて薬剤業務経験有			

科目名	薬理学Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次前期
講師名	市川 智之	授業形態	講義	
ねらい	薬物の作用・副作用と医薬品の管理を理解する。			
目標	1.臨床の場での薬物療法を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.末梢神経作用薬：自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 2.中枢神経治療薬：全身麻酔薬、催眠薬、麻薬、抗てんかん薬、パーキンソン症候群治療薬、アルツハイマー認知症薬、向精神薬 3.心・血管系作用薬：降圧剤、利尿薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、強心薬 4.血液作用薬：抗血栓薬、止血薬、血液製剤 5.呼吸器系作用薬：気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、COPD 治療薬、インフルエンザ治療薬 6.消化器系作用薬：胃薬、ピロリ菌について(制吐剤、下剤) 7.内分泌・代謝系作用薬：甲状腺疾患治療薬、骨・カルシウム代謝薬、ホルモン剤、糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬 8.抗感染症薬：抗菌薬、抗真菌薬、ワクチン、HIV・AIDS 9.抗悪性腫瘍薬：細胞周期、分子標的薬、発効率、有害事象 10.抗炎症薬・解熱鎮痛薬：ステロイド薬、痛風治療薬、NSAIDs 11.漢方薬：エキス製剤とは、西洋薬との違い、代表的な漢方薬 12.輸液・消毒薬：浸透圧について、含有無製剤、TPN 製剤、消毒薬			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・新体系看護学全書 疾病のなりたちと回復の促進 薬理学、メヂカルフレンド社、2012 *			
備考	実務経験有：医療機関にて薬剤業務経験有			

科目名	公衆衛生学	単位数	時間	履修年次
		2	30	3年次前期
講師名	下条 陽子	授業形態	講義	
ねらい	生活者の健康増進に対応した保健活動の進め方について理解する。			
目標	1.公衆衛生の基本的内容を理解できる。 2.健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.公衆衛生の理念 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)公衆衛生のしくみ</li> <li>2)日本の公衆衛生の歴史</li> <li>3)公衆衛生の活動対象</li> <li>4)経済政策と新自由主義</li> <li>5)PHC の健康課題の変遷</li> </ul> 2.疫学と健康指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)地球規模の環境と健康：地球温暖化、オゾン層の破壊、水質汚濁、土壌汚染、放射性物質</li> <li>2)身の回りの環境と健康：室内環境、食品安全確保対策(食品衛生管理制度)、家庭用品の安全対策、ごみ・廃棄物</li> <li>3)疫学</li> </ul> 3.地域保健 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)母子保健</li> <li>2)成人保健</li> <li>3)高齢者保健</li> <li>4)精神保健</li> <li>5)歯科保健</li> <li>6)難病支援、生涯支援</li> <li>7)感染症対策</li> </ul> 4.医療の動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)学校保健</li> <li>2)産業保健</li> <li>3)国際保健</li> </ul>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生、医学書院、2019*			
備考	実務経験無し			

科目名	関係法規	単位数	時間	履修年次
		2	30	3年次前期
講師名	眞木 真奈美	授業形態	講義	
ねらい	看護師としての職務を遂行するために必要な法規について理解する。			
目標	1.法規のしくみとその種類について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.法の概念 2.看護法 3.医事法 4.保健衛生法 5.薬務法 6.環境衛生法 7.社会保険法 8.福祉法 9.労働法と社会基盤整備 10.環境法	1)法の概念 2)衛生法の沿革 3)厚生行政のしくみ 1)保健師助産師看護師法 2)看護師等の塵埃確保法 1)医師法・医療法 2)医療関係資格：薬剤師法、放射線技師法、理学療法士・作業療法士法 など 3)保健医療福祉資格法：栄養士法、精神保健福祉士法 など 4)医療を支える法：地域医療・介護の総合的確保促進法、臓器移植法など 5)人の死に関する法：死産届出規定(省令)、死体解剖保存法 6)緊急時の医療・看護に関する法：事故に関する法、災害時の医療に関する法令 1)共通保健法：地域保健法、健康増進法 2)分野別保健法：精神保健福祉法、母子保健法、母体保護法、学校保健安全法、 がん対策基本法、その他 3)感染症に関する法：感染症法、検疫法、新型インフルエンザ対策特別措置法 4)食品に関する法：食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法 1)薬事一般に関する法 2)人等の組織を用いた医療関連法 3)薬剤被害者の救済等 4)麻薬・毒物の法 1)営業関係法 2)環境整備：水道法、下水道法、狂犬病予防法、墓地埋葬法 など 1)費用保障：健康保険法、国民健康保険法、介護保険法 2)年金：国民年金法、厚生年金法 3)手当：児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法 1)共通福祉：社会福祉法、生活保護法、民法(成年後見制度)その他 2)児童分野：児童福祉法、児童虐待福祉法、母子父子・寡婦福祉 3)高齢分野：老人福祉法、高齢者虐待防止法 4)障害分野：障害者基本法、障害者総合支援法、障害者虐待防止法、 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法 その他 1)労働法：労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、育児休業・介護休業法 2)社会基盤整備等：男女共同参画社会基本法、個人情報保護法 など 1)環境保全の基本法：環境基本法 その他 2)郊外の防止法：大気汚染防止法、悪臭防止法、水質汚染防止法、 騒音規制法・振動規制法 など 3)自然保護法：自然環境保全法 その他		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令、医学書院、2021 * ・看護六法、新日本法規			
備考	実務経験無し			

科目名	社会福祉Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	15	2年次前期
講師名	林 潤一	授業形態	講義	
ねらい	人間の生存権を保障するための社会的な施策および活動について知識を深め、保健・医療との関連について理解する。			
目標	1.社会福祉の基本的内容を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.社会福祉の基本的性格 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)社会福祉の定義</li> <li>2)社会福祉の構造</li> <li>3)社会福祉と看護との関連</li> </ul> 2.生活問題と社会福祉サービス 3.医療保障：医療保障制度、公費負担医療、我が国の問題点 4.所得保障：年金制度、労災保険、社会手当、低所得保障 5.公的扶助：生活保護制度、低所得階層対策 6.介護保険制度			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉、医学書院、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にてMSW業務経験有			

科目名	社会福祉Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	15	2年次前期
講師名	磯崎 美穂	授業形態	講義	
ねらい	人間の生存権を保障するための社会的な施策および活動について知識を深め、保健・医療との関連について理解する。			
目標	1.生活問題に対する社会福祉の方法と課題について理解できる。 2.医療・看護と福祉の連携について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.社会福祉の分野とサービス <ul style="list-style-type: none"> <li>1)高齢者福祉</li> <li>2)障害者福祉</li> <li>3)児童家庭福祉</li> </ul> 2.社会福祉実践活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)基本的枠組み</li> <li>2)基本となる要素(焦点、理論、価値・倫理要項)</li> <li>3)機能範囲</li> <li>4)援助活動の展開過程</li> </ul> 3.社会福祉と医療・看護の連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)連携の必要性(高齢者問題)</li> <li>2)医療福祉問題</li> <li>3)医療システムの変化</li> <li>4)医療ソーシャルワーク</li> <li>5)実際(マネジメント) — 事例検討</li> </ul> 4.社会福祉分野とサービス体系			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉、医学書院、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にてMSW業務経験有			



## 専門分野 I (13 単位 510 時間)

### 1.ねらい

各看護学及び在宅看護論の基礎となる基礎的理論や基礎的技術を身につける。

### 2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年次	項
基礎看護学	看護学概論 I	1	30	1 年次	24
	看護学概論 II	1	30	2 年次	
	基礎看護技術 I	2	90	1 年次	25
	基礎看護技術 II	2	90	1 年次	26
	基礎看護技術 III	1	45	2 年次	27
	臨床看護総論	1	45	2 年次	28
	看護研究 I	1	15	2 年次	29
	看護研究 II	1	30	3 年次	
臨地実習 基礎看護学	基礎看護学 I 実習	1	45	1 年次	
	基礎看護学 II 実習	2	90	2 年次	
		13	510		

\*実習については、実習要項を参照。

科目名	看護学概論Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年前期
講師名	大川 和子	授業形態	講義、演習	
ねらい	看護の概念と役割を理解し、看護の本質について考え、看護の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。			
目標	1.看護の概念とその変遷について理解できる。 2.看護の対象について理解できる。 3.看護の機能と役割について理解できる。			
講義内容 (概要)	1.看護の本質  2.看護の対象としての人間  3.人間と健康  4.看護の機能と役割	1)看護の定義 2)役割と機能 3)職業としての看護(主要な看護理論) 4)看護の変遷  1)全体としての人間 2)成長発達する存在 3)ライフサイクルと発達課題 4)ニーズを持つ存在 5)生活者としての存在 6)適応する存在 7)社会・文化的存在  1)健康のとらえ方 2)健康の諸相 3)健康への影響要因 4)生活習慣とセルフケア 5)QOL  1)専門職としての看護 2)看護の場・役割 3)看護の対象と協働		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論、医学書院、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	看護学概論Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次前期
講師名	大川 和子	授業形態	講義、演習	
ねらい	看護の概念と役割を理解し、看護の本質について考え、看護の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。			
目標	1.看護倫理について理解できる。 2.看護倫理の事例検討ができる。			
講義内容 (概要)	1.看護における倫理  2.倫理的課題と意志決定 【演習】事例展開 — 看護倫理 3.国際看護	1)基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳 2)患者の権利と擁護 3)医療倫理・生命倫理 4)職業倫理・看護倫理 5)看護職者の倫理綱領		
評価方法	・筆記試験 ・課題提出			
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論、医学書院、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	基礎看護技術 I	単位数	時間	履修年次
		2	90	1 年次前期～後期
講師名	須加野 幸恵、萩野 裕美	授業形態	講義、演習	
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。			
目標	1.看護技術の概念を理解できる。 2.看護過程の展開ができる。 3.全身の観察ができる。			
講義内容 (概要)	1.看護技術の概念 2.看護過程 3.標準看護計画の活用 4.フィジカルアセスメント 1)看護におけるフィジカルアセスメント 2)ヘルスアセスメントの目的 3)看護過程とヘルスアセスメント 4)フィジカルアセスメントのための共通技術 ・インタビュー(コミュニケーション)、計測、観察 ・信頼関係の構築 5)フィジカルイグザミネーション ・呼吸器・循環器・腹部・神経系のフィジカルアセスメント 6)身体計測の目的と方法 身長、体重、頭囲、胸囲、腹囲、肺活量、握力、関節可動域 7)バイタルサインの観察の目的と方法 ・意識の観察、脈拍の観察、呼吸の観察 ・体温の観察、血圧の観察、バイタルサイン測定 8)フィジカルアセスメントの活用 ・電法の目的と方法 ・バイタルサインの変化から全身状態を判断する	1)看護技術とは 2)看護技術の特徴 3)看護技術の基本原則 1)看護過程とは(問題解決過程) 2)情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合 3)看護問題の明確化と優先順位決定 4)看護目標の設定と計画 5)実施・評価 6)看護記録の意義、必要性和種類 7)報告の必要性和方法 8)医療計画とクリティカルパス	事例展開  フィジカルアセスメント ✿ 問診、視診、聴診、触診、打診  身体計測(身長、体重、頭囲、胸囲、 腹囲、肺活量、握力、関節可動域)  電法(温電法・冷電法)	
評価方法	・筆記試験 ・技術			
使用テキスト	・高木永子：看護過程に沿った対症看護、学研、2018 ・阿部俊子、山本則子：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図、2014 ・新体系看護学全書 基礎看護技術 1、メヂカルフレンド社、2017*			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	基礎看護技術Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		2	90	1年次前期～後期
講師名	有馬 正子、天貝 恵子、大竹口 寿恵、 落合 一乃	授業形態	講義、演習	✿技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。			
目標	1.看護技術の基本原則を理解できる。 2.日常生活援助ができる。			
講義内容 (概要)	<p>1.生活環境</p> <p>1)療養生活環境とは ・安全な療養環境 2)環境アセスメント 3)病室・病床整備の実際</p> <p>2.感染予防</p> <p>1)標準予防対策と感染経路別予防策 (スタンダードプリコーション含む) ・手洗い、消毒、感染性廃棄物の取り扱い ・感染拡大の防止の対応</p> <p>3.身体の清潔・衣生活</p> <p>1)身体清潔・衣生活の意義 2)清潔行動に影響する要因のアセスメント 3)身体各部の清潔援助の方法 (1)口腔の清潔：口腔のアセスメントと援助方法 (2)皮膚の清潔：皮膚のアセスメントと援助方法 (3)入浴の効果と適応、入浴の援助 (4)部分清拭 (5)頭髪の清潔：頭髪のアセスメントと援助方法 4)寝衣の種類と特徴、選択方法 ・療養生活と衣生活のアセスメント (1)臥床患者の寝衣交換の方法(輸液ラインなし) 5)整容・整髪</p> <p>4.活動・休息</p> <p>1)姿勢 (1)良い姿勢 (2)体位の種類と身体への影響 (3)安楽な姿勢・体位の特徴 (4)同一体位による有害性 (5)ボディメカニクスの原理と看護実践への活用</p> <p>2)活動・運動の意義 3)活動・運動に影響する要因のアセスメント 4)姿勢・活動を整えるための援助 (1)体位変換 (2)移動 (3)車椅子・ストレッチャーへの移乗と移送 5)睡眠・休息の意義 6)睡眠・覚醒のリズム 7)睡眠障害 8)睡眠・休息のアセスメントと援助</p> <p>5.食事</p> <p>1)食事、栄養の意義 2)健康な食生活、食事摂取基準、治療食・療養食 3)摂食、嚥下、消化吸収のメカニズム 4)食事・栄養摂取に影響する因子 5)食事・栄養状態のアセスメント 6)食事援助の実際 ・実施前の評価、説明、環境調整、準備、姿勢の保持(誤嚥防止)、食事用具の工夫、自助具の紹介、介助の方法</p>	<p>病床環境整備 ベッドメイキング、 臥床患者のリネン交換✿</p> <p>手洗い、防護用具の装着 (手袋、マスクなど)</p> <p>臥床患者の口腔ケア(歯ブラシを用いた援助) 臥床患者の全身清拭✿ 足浴・手浴の援助、爪の手入れ、 陰部洗浄 臥床患者の洗髪✿</p> <p>臥床患者の寝衣交換✿ ドライシャンプーと整髪</p> <p>臥床患者の体位変換、 安楽な体位の工夫✿</p> <p>入眠・睡眠を意識した活動の援助、 リラクゼーション</p> <p>臥床患者の食事介助(嚥下障害患者を除く)</p>		

講義内容 (概要)	6.排泄 1)排泄の意義 2)排泄のメカニズム 3)排泄のアセスメント 4)排泄に影響を与える因子 5)自然な排便・排尿を促す援助—排泄援助の実際 6)トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助方法 7)床上での排泄の援助	臥床患者の便尿器の介助❀ ポータブルトイレ介助 おむつ交換
評価方法	・筆記試験 ・課題提出 ・技術	
使用テキスト	・新体系看護学全書 基礎看護技術 2、メヂカルフレンド社 *	
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有	

科目名	基礎看護技術Ⅲ 診療の補助	単位数	時間	履修年次
		1	45	2年次前期
講師名	馬場 智子	授業形態	講義、演習	❀技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。			
目標	1.診療の補助動作ができる。			
講義内容 (概要)	1.生体機能モニタリング 1)診療・検査時の看護師の役割 2)検体検査：排泄物(尿、便、喀痰)、 体液(血液、穿刺液、分泌物、組織) 3)生体検査：放射線、心電図、呼吸機能検査など 4)経皮的動脈血酸素飽和度(SpO2)の測定、血糖測定 5)ME 機器の取り扱いとモニタリング 2.採血 1)穿刺部位 2)採血方法 3.呼吸管理 1)酸素吸入の適応と方法 中央配管・酸素ボンベによる方法酸素吸入器具(鼻カニューレ、フェイスマスク、ベンチュリーマスク、リザーバー付酸素マスク) 4.薬物療法 (与薬) 5.輸液管理 1)静脈内注射、中心静脈栄養 2)輸液速度の調整 ・クレンメを用いた自然滴下による方法 ・輸液ポンプによる方法 6.輸血管理 1)輸血の基礎知識(目的、種類と適応) 2)輸血援助の実際	尿検査(試験紙) 心電図検査(12誘導心電図) 静脈血採血❀ 中央配管・酸素ボンベによる方法 与薬の実際：・経口、経皮、直腸内、 点眼 ・筋肉内注射❀ ・静脈内注射(ワンショット) ・点滴静脈内注射 ・輸液速度調整(輸液ポンプ)		
評価方法	・筆記試験 ・課題提出 ・技術			
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2017 * ・系統看護学講座<別巻>臨床検査、医学書院、2019 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	臨床看護総論	単位数	時間	履修年次
		1	45	2年次前期
講師名	井上 千寿子	授業形態	講義、演習	✿技術テスト
ねらい	健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方を学ぶ。			
目標	1.経過に基づく対象の看護を理解できる。 2.主要な症状を示す対象の看護を理解できる。 3. 主要な治療・処置の看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.臨床看護とは 2.経過別看護 1)急性期とは   2)回復期とは   3)慢性期とは 4)終末期とは   5)リハビリ期とは 3.症状別看護 1)意識、感覚障害のある患者の看護 2)呼吸障害のある患者の看護  3)栄養・排泄障害のある患者の看護  4)循環障害を持つ患者の看護 5)痛みのある患者の看護 4.治療、処置別看護 1)食事療法とは 2)安静療法とは 3)輸液療法とは ・持続点滴注射を実施している患者の看護 ・中心静脈栄養法を実施する患者の看護 4)手術療法とは 5)放射線療法とは   ・放射線治療の看護師の役割 6)人工臓器とは(透析療法) ・ME 機器の管理   ・心電図モニター・12誘導心電図 7)救急法を必要とする患者の看護(集中治療と看護)	口腔・鼻腔内および気管内吸引 体位ドレナージ 滅菌法、無菌操作 導尿を行う患者の看護✿ 排便の方法、グリセリン浣腸 膀胱留置カテーテルの管理  経管栄養法(流動食の注入)の管理  輸液ライン挿入中の寝衣交換		
評価方法	・筆記試験   ・課題提出   ・技術			
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論、医学書院、2016 * ・新体系看護学全書 基礎看護学④臨床看護総論、メヂカルフレンド社、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	看護研究Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	15	2年次後期
講師名	上原 朋子	授業形態	講義、演習	
ねらい	研究的態度をもって日々の看護活動に取り組む姿勢、自己の看護観を養う。			
目標	1.看護研究の基礎を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.看護研究とは (看護研究の意義) 2.看護研究のはじめ方  3.文献レビューとその方法 4.研究における倫理的配慮 5.研究デザインとデータの収集 6.研究計画書	1)看護研究とは 2)看護研究の歴史  1)リサーチクエスションとは 2)リサーチクエスションを考える <b>【演習】</b> リサーチクエスション *効果的な文章の書き方  1)文献とは 2)研究における文献の種類 3)文献検索の方法 4)文献の読み方  1)研究倫理の歴史 2)研究における倫理原則と権利  1)研究の設計と方法 2)データの収集方法 3)データの分析  1)研究計画書の意義 2)研究計画書に必要な要素	<b>【演習】</b> 研究計画書の作成	
評価方法	・筆記試験 ・課題			
使用テキスト	・系統看護学講座<別巻>看護研究、医学書院、2016 *			
備考				

科目名	看護研究Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	3年次前期～後期
講師名	上原 朋子 他教員	授業形態	講義、演習	
ねらい	研究的態度をもって日々の看護活動に取り組む姿勢、自己の看護観を養う。			
目標	1.事例を通して、ケーススタディの実際ができる。			
講義内容 (概要)	1.ケーススタディの進め方  2.ケースレポートの実際	1)ケースレポートの作成 ・進め方と情報収集 2)ケースレポート作成に必要な要素  1)テーマの絞り込み 2)研究計画書の作成 <b>【演習】</b> 3)ケースレポートの作成 <b>【演習】</b> 4)発表資料の作成 : 発表方法と原稿作成の意味 <b>【演習】</b> 5)発表原稿の作成 6)講評の実際: 講評の意義: 講評の目的と方法(ガイドライン) 7)発表の実際(口頭発表)		
評価方法	・研究計画書 ・ケースレポート ・発表資料(抄録) ・発表の実際(態度 etc.) ・講評の実際			
使用テキスト	・系統看護学講座<別巻>看護研究、医学書院、2016 *			
備考	実務経験有: 医療機関にて看護業務経験有			

## 専門分野Ⅱ(38単位 1230時間)

### 1.ねらい

看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ。

### 2.科目構成

		科目名	単位数	時間数	履修年次	項	
成人看護学		成人看護学Ⅰ	2	30	1年次	31	
		成人看護学Ⅱ	2	60	2年次	32	
		成人看護学Ⅲ	1	30	2年次	34	
		成人看護学Ⅳ	1	30	2年次	35	
老年看護学		老年看護学Ⅰ	2	30	2年次	36	
		老年看護学Ⅱ	2	60	2年次		
		小児看護学Ⅰ	2	30	2年次	38	
		小児看護学Ⅱ	2	60	2年次	39	
		母性看護学Ⅰ	2	30	2年次	40	
		母性看護学Ⅱ	2	60	2年次	41	
		精神看護学Ⅰ	2	45	1年次	42	
		精神看護学Ⅱ	1	15	2年次		
		精神看護学Ⅲ	1	30	2年次	43	
	臨地実習	成人看護学	成人看護学Ⅰ実習	2	90	2年次	
			成人看護学Ⅱ実習	2	90	3年次	
			成人看護学Ⅲ実習	2	90	3年次	
老年看護学		老年看護学Ⅰ実習	2	90	2年次		
		老年看護学Ⅱ実習	2	90	3年次		
小児看護学		小児看護学実習	2	90	3年次		
母性看護学		母性看護学実習	2	90	3年次		
精神看護学		精神看護学Ⅰ実習	1	45	1年次		
	精神看護学Ⅱ実習	1	45	3年次			
			38	1,230			

\*実習については、実習要項を参照。



科目名	成人看護学 I (概論・保健)	単位数	時間	履修年次	
		2	30	1 年次後期	
講師名	藤岡 裕子	授業形態	講義		
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。				
目標	1.ライフサイクルと成人看護の役割を理解できる。 2.成人保健の動向と医療・福祉対策を理解できる。				
講義内容 (概要)	1.成人の生涯発達の特徴  2.成人と生活  3.成人保健の動向と対策  4.生活習慣に関する健康問題 (糖尿病・肥満・高血圧) 5.職業に関する健康問題  6.生活ストレスに関連する健康問題	1)ライフサイクルからみた成人(成人期) 2)成人期のライフサイクルとライフステージ 3)青年期・壮年期・向老期の身体の特徴 4)青年期・壮年期・向老期の心理社会的な特徴  1)家族形態と機能 2)社会状況の変化と成人の生活  1)健康に関する指標： ・平均余命・死因、死亡率・受療率等・産業構造の変化 ・生活環境衛生 2)成人を対象とした保健政策 3)成人を対象とした健康教育  1)生活習慣病の発症因子と予防 2)生活習慣病の発症状況 3)生活習慣病予防における看護の役割  1)労働条件・環境と病気 2)職業性疾患の発生状況と予防 3)家事労働と保健 ・女性の就労と子育て・主婦と育児不安 ・育児ストレス・主婦と健康問題・高齢者介護  1)生活ストレスと健康問題 2)ストレス関連疾患の発生状況 3)ストレス対処方法			
評価方法	・筆記試験 ・課題提出				
使用テキスト	・系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論、医学書院、2018 * ・国民衛生の動向、厚生労働統計協会				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	成人看護学Ⅱ(急性期の看護)	単位数	時間	履修年次
		2	60	2年次前期
講師名	大槻 勝明、宍戸 正子、小野朋子 鈴木 あや、谷口 綾子	授業形態	講義、演習	
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.救命救急期にある対象の看護を理解できる。 2.周手術期にある対象の看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	<p>1.急性・重症患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)急性・重症患者の特徴</li> <li>2)急性・重症患者の家族の特徴と看護</li> <li>3)危機状態への精神的支援</li> </ul> <p>2.救急法を必要とする患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)救急法とは：救急処置の範囲と対象、救急処置の実際</li> <li>2)救急処置：出血、熱傷、外傷、けいれん、ショック、熱中症、食中毒</li> </ul> <p>3.生命の危機的状況のアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)患者、家族の特徴：患者のアセスメント、看護の特徴</li> <li>2)緊急性と重症度のアセスメント 意識レベル、バイタルサイン、神経学的所見動脈血酸素飽和度(Spo2) 【演習】呼吸循環機能アセスメントの実際</li> <li>3)人工呼吸器装着中の患者の理解 ※2)の呼吸循環機能のアセスメントを含む ・人工呼吸器を必要とする患者の理解 ・気管内挿管の準備(必要物品、患者の体位 他)</li> </ul> <p>4.急性・回復期にある心筋梗塞の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)疾患の基礎的知識 ・心筋梗塞の病態生理主な症状と病態(胸痛、関節痛)</li> <li>2)主な検査と治療の看護 ・緊急時のチェックポイント ・心臓カテーテル検査、心血管造影検査時の看護 ・経皮的冠動脈インターベンションでの看護 ・ペースメーカー装着時の援助</li> <li>3)急性期のアセスメント ・胸痛・呼吸困難などの苦痛の軽減 ・安静度に応じた日常生活への援助</li> <li>4)看護目標と看護活動 ・合併症の予防と早期発見(心臓リハビリテーションの進め方) ・食事・排泄・身体活動の拡大 ・薬物療法時の看護</li> </ul> <p>5.急性心不全患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)疾患の基礎的知識</li> <li>2)主な検査と治療の看護 ・肺うっ血に伴う呼吸困難の緩和</li> <li>3)急性期のアセスメント ・薬物療法時の看護(利尿薬、強心薬)</li> <li>4)看護目標と看護活動</li> </ul> <p>6.院内(病院)予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)標準予防策 ・標準予防策の基本的な考え方 ・標準予防策の実際 【演習】手指衛生、防護用具の着用</li> <li>2)感染経路に対応した感染予防策 ・接触感染 ・飛沫感染 ・空気感染</li> <li>3)滅菌物の管理 ・滅菌法の実際 ・滅菌物の取扱い 【演習】滅菌器材の操作法</li> <li>4)感染管理組織の役割と院内感染サーベイランス</li> </ul> <p>7.手術療法時の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)周手術期看護とは</li> <li>2)手術療法とは (1)手術・麻酔侵襲による生体反応 ①神経・内分泌反応</li> <li>3)手術前患者の看護 (1)手術前の検査と評価 ①呼吸機能検査 ②心電図検査 ③血液検査 ④栄養状態の把握と評価 (2)術後合併症のリスクアセスメント ・呼吸器合併症、血栓塞栓症、術後イレウス、術後せん妄 (3)術前指導 (4)手術の準備:手術前日・手術当日 (5)術前訪問 (6)不安のアセスメントと援助</li> </ul>			

講義内容 (概要)	<p>4)手術中患者の看護</p> <p>5)手術後患者の看護</p> <p>6)手術後合併症の予防と看護</p> <p>7)早期回復を促進する援助</p> <p>8.手術療法を受ける患者の看護</p> <p>1)胃がん患者の看護</p> <p>2)胃がん患者の回復期の看護</p> <p>9.障害への適応と社会復帰への看護</p> <p>1)障害受容への援助</p> <p>2)障害の改善と克服への援助 社会資源の活用</p>	<p>(1)入室～麻酔導入時の看護 (4)麻酔方法による影響と援助</p> <p>(2)手術体位とその影響 (5)術中の安全管理</p> <p>(3)手術方法による影響と援助 (6)手術室看護師の役割</p> <p>(1)術後合併症の観察とアセスメント</p> <p>(2)術後の疼痛管理</p> <p>(3)術後のドレーン管理</p> <p>(4)日常生活の援助</p> <p>(1)胃がん患者の術前・術中・術後の看護</p> <p>(2)胃切除後におきやすい合併症</p> <p>(3)創傷の治癒修復までの援助</p> <p>(1)社会復帰に向けて</p> <p>(1)機能障害と日常生活動作のアセスメント</p> <p>(2)代償機能の獲得</p> <p>(3)役割交代、職場調整</p> <p>(4)身体障害者福祉法に基づく</p>
講義内容 (概要)	<p>10.障害を持つ患者への看護</p> <p>1)大腸がん(ストーマ造設患者)</p> <p>【演習】創傷処置の基礎 ・一般的な生活上の留意点 ・ストーマ管理指導</p>	<p>(1)創傷の治癒過程</p> <p>(2)創傷のアセスメント</p> <p>(3)ドレッシング、フィルム剤</p>
評価方法	・筆記試験	
使用テキスト	<p>・系統看護学講座 臨床外科看護学総論、医学書院、2017 *</p> <p>・系統看護学講座 成人看護学 [3] 循環器、医学書院、2019 *</p> <p>・系統看護学講座 成人看護学 [5] 消化器、医学書院、2019 *</p>	
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有	

科目名	成人看護学Ⅲ(慢性期の看護)	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次前期
講師名	飯塚 祐子、丹野 朋子	授業形態	講義、演習	
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.慢性期にある対象の看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	<p>1.慢性疾患の特徴と看護</p> <p>2.セルフケア・自己管理支援</p> <p>3.慢性の経過をたどる患者の看護</p> <p>1)糖尿病患者の看護</p> <p>2)慢性腎不全患者の看護</p>	<p>1)慢性疾患の特徴</p> <p>2)慢性疾患の経過プロセス</p> <p>1)疾病認識と自己管理状況のアセスメント</p> <p>2)セルフケア行動形成への影響要因 内的動機づけ、自己効力感、ストレスコーピング、エンパワメント、心理的葛藤への対応</p> <p>3)社会的支援の獲得(患者会の活用、支援)</p> <p>4)生活と自己管理の調整自己モニタリング</p> <p>(1)機能障害のアセスメント：血糖調整機能障害の原因と程度</p> <p>(2)症状とその看護</p> <p>(3)診断基準、血糖コントロール目標値：糖負荷試験(OGTT)</p> <p>(4)合併症:3 大合併症、フットケア</p> <p>(5)治療をうける患者の看護 食事・運動療法、インスリン補充療法、糖尿病治療薬内服による治療、血糖調整機能障害による症状の把握と理解(低血糖)、血糖の自己測定 SMBG</p> <p>(6)糖尿病患者の身体的・社会的・精神的特徴</p> <p>【演習】糖尿病患者の食事指導方法、簡易血糖測定、インスリン自己注射の指導法</p> <p>(1)腎不全(急性、慢性)、慢性腎臓病(CKD)の理解 体液量・電解質・酸塩基平衡調節機能障害による原因と程度、症状</p> <p>(2)症状とその看護(浮腫を含む)</p> <p>(3)腎不全の検査:腎機能検査、腎生検</p> <p>(4)治療をうける患者の看護：食事療法(腎不全期・維持透析期)、透析療法(血液透析・腹膜灌流)の管理、腎移植</p>		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	<p>・系統看護学講座 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院、2019 *</p> <p>・系統看護学講座 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、医学書院、2019 *</p> <p>・系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論、医学書院、2018 *</p>			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	成人看護学Ⅳ(終末期の看護)	単位数	時間	履修年次
		1	30	2年次後期
講師名	松本 俊子、天貝 恵子	授業形態	講義、演習	
ねらい	成人期の特徴と健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.ターミナル期にある対象の看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	<p>1.終末期にある患者の看護</p> <p>1)緩和ケアの概念：ターミナルケア、ホスピス、緩和ケア</p> <p>2)終末期にある患者の理解：全人的苦痛の理解、アセスメント</p> <p>3)終末期にある患者への援助</p> <p>(1)症状マネジメントの考え方、アセスメント</p> <p>(2)全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助</p> <p>(3)緩和ケアに用いられる看護介入</p> <p>(4)疼痛アセスメントと援助 (5)QOLの保証</p> <p>4)終末期における精神的援助：精神症状のある対象へのケア</p> <p>5)チーム医療(チームアプローチ)</p> <p>2.終末の経過をたどる患者の看護</p> <p>1)終末期にある肺がん患者の看護</p> <p>(1)身体症状のマネジメントとケア：胸水貯留と呼吸困難・倦怠感・食欲不振</p> <p>2)白血病患者の看護</p> <p>(1)身体症状のマネジメントとケア：出血傾向・易感染時の看護</p> <p>(2)検査・治療時の看護：化学療法、放射線療法、造血幹細胞移植、外来化学療法</p> <p>3)家族の心理の理解と看護：予期的悲嘆、家族ケアの実際、死をめぐる倫理的問題、死の受容過程</p> <p>4)看取りのケア：死の兆候とケア、死後のケア、遺族へのかかわり</p> <p><b>【演習】死後のケア(デモンストレーション、VTR)</b></p>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 緩和ケア、医学書院、2020 *</li> <li>・系統看護学講座 がん看護学、医学書院、2017 *</li> <li>・系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論、医学書院、2016 *</li> <li>・系統看護学講座 成人看護学 [1] 成人看護学総論、医学書院、2018 *</li> </ul>			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	老年看護学Ⅰ(概論・保健)	単位数	時間	履修年次																																													
		2	30	2年次前期																																													
講師名	沼尻 美代子	授業形態	講義、演習																																														
ねらい	老年期の特徴と健康生活維持・増進のための課題を理解し、援助できる能力を身につける。																																																
目標	1.ライフステージと老年看護の役割を理解できる。 2.老年保健の動向と医療・福祉対策を理解できる。																																																
講義内容(概要)	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">1.高齢者(老年期)とは</td> <td style="vertical-align: top;">1)加齢と老化 2)高齢者の定義：ライフサイクルにおける老年期 3)発達と成熟</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2.加齢に伴う変化</td> <td style="vertical-align: top;">1)身体機能 2)心理社会的機能 3)高齢者の社会参加</td> <td style="vertical-align: top;">(1)恒常性と4つの力の変化 (2)身体の高齢変化 【演習】高齢者体験 (1)精神機能の変化 (2)人格と尊厳 ・ 老いへの適応・喪失体験 ・心理的側面の変化</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3.超高齢社会の統計的輪郭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">4.高齢社会における保健医療福祉の動向</td> <td style="vertical-align: top;">1)高齢者福祉 2)高齢者医療 3)高齢者を支える多様な職種と連携</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">5.高齢者とヘルスプロモーション</td> <td style="vertical-align: top;">1)高齢者のヘルスプロモーション 2)介護予防とヘルスプロモーション ・老年期の健康と生活 ・高齢者の死</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">6.エンドオブライフケア</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">7.高齢者の権利擁護(高齢者看護における倫理)</td> <td style="vertical-align: top;">1)高齢者に対するスティグマ(烙印) 2)高齢者虐待：虐待の実態と法制度 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度：成年後見制度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">8.高齢者に対するアセスメント</td> <td style="vertical-align: top;">1)高齢者のアセスメントの特徴 2)包括的な機能のアセスメント</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">9.老年看護の役割</td> <td style="vertical-align: top;">1)老年看護の特徴</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1.高齢者(老年期)とは	1)加齢と老化 2)高齢者の定義：ライフサイクルにおける老年期 3)発達と成熟				2.加齢に伴う変化	1)身体機能 2)心理社会的機能 3)高齢者の社会参加	(1)恒常性と4つの力の変化 (2)身体の高齢変化 【演習】高齢者体験 (1)精神機能の変化 (2)人格と尊厳 ・ 老いへの適応・喪失体験 ・心理的側面の変化			3.超高齢社会の統計的輪郭					4.高齢社会における保健医療福祉の動向	1)高齢者福祉 2)高齢者医療 3)高齢者を支える多様な職種と連携				5.高齢者とヘルスプロモーション	1)高齢者のヘルスプロモーション 2)介護予防とヘルスプロモーション ・老年期の健康と生活 ・高齢者の死				6.エンドオブライフケア					7.高齢者の権利擁護(高齢者看護における倫理)	1)高齢者に対するスティグマ(烙印) 2)高齢者虐待：虐待の実態と法制度 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度：成年後見制度				8.高齢者に対するアセスメント	1)高齢者のアセスメントの特徴 2)包括的な機能のアセスメント				9.老年看護の役割	1)老年看護の特徴			
1.高齢者(老年期)とは	1)加齢と老化 2)高齢者の定義：ライフサイクルにおける老年期 3)発達と成熟																																																
2.加齢に伴う変化	1)身体機能 2)心理社会的機能 3)高齢者の社会参加	(1)恒常性と4つの力の変化 (2)身体の高齢変化 【演習】高齢者体験 (1)精神機能の変化 (2)人格と尊厳 ・ 老いへの適応・喪失体験 ・心理的側面の変化																																															
3.超高齢社会の統計的輪郭																																																	
4.高齢社会における保健医療福祉の動向	1)高齢者福祉 2)高齢者医療 3)高齢者を支える多様な職種と連携																																																
5.高齢者とヘルスプロモーション	1)高齢者のヘルスプロモーション 2)介護予防とヘルスプロモーション ・老年期の健康と生活 ・高齢者の死																																																
6.エンドオブライフケア																																																	
7.高齢者の権利擁護(高齢者看護における倫理)	1)高齢者に対するスティグマ(烙印) 2)高齢者虐待：虐待の実態と法制度 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度：成年後見制度																																																
8.高齢者に対するアセスメント	1)高齢者のアセスメントの特徴 2)包括的な機能のアセスメント																																																
9.老年看護の役割	1)老年看護の特徴																																																
評価方法	・筆記試験 ・課題																																																
使用テキスト	・系統看護学講座 老年看護学. 医学書院. 2019 * ・(編)山田律子、萩野悦子、内ヶ島伸也、井出訓：生活機能からみた老年看護過程、医学書院、2020 *																																																
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有																																																

科目名	老年看護学Ⅱ (健康障害を持つ高齢者の看護)	単位数	時間	履修年次										
		2	60	2年次前期～後期										
講師名	根本弘美、岡田恒夫、橋本貴幸、 比企澄恵、竹之内美樹、鎮目祐子、 相澤宏実、諏訪恵理子、関根美幸、 小澤さおり	授業形態	講義、演習											
ねらい	老年期の特徴と健康生活維持・増進のための課題を理解し、援助できる能力を身につける。													
目標	1.高齢者の加齢変化に応じた健康生活維持の看護を理解できる。 2.健康課題を持つ高齢者と(家族)の看護を理解できる。													
講義内容(概要)	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">1.老年看護の基本技術 1)コミュニケーション</td> <td style="vertical-align: top;">(1)コミュニケーション能力のアセスメント (2)コミュニケーションを促す要素と阻害要因 (3)高齢者におこりやすいコミュニケーションの障害 ・老人性難聴、失語症、構音障害 (4)高齢者とのコミュニケーションの方法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2.日常生活援助 1)活動</td> <td style="vertical-align: top;">(1)活動性の変化と生活への影響 (2)基本的日常生活動作&lt;BADL&gt;と手段的日常生活動作&lt;IADL&gt;</td> <td style="vertical-align: top;">・痛み、しびれ、心理・情緒機能、生活環境</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1.老年看護の基本技術 1)コミュニケーション	(1)コミュニケーション能力のアセスメント (2)コミュニケーションを促す要素と阻害要因 (3)高齢者におこりやすいコミュニケーションの障害 ・老人性難聴、失語症、構音障害 (4)高齢者とのコミュニケーションの方法				2.日常生活援助 1)活動	(1)活動性の変化と生活への影響 (2)基本的日常生活動作<BADL>と手段的日常生活動作<IADL>	・痛み、しびれ、心理・情緒機能、生活環境		
1.老年看護の基本技術 1)コミュニケーション	(1)コミュニケーション能力のアセスメント (2)コミュニケーションを促す要素と阻害要因 (3)高齢者におこりやすいコミュニケーションの障害 ・老人性難聴、失語症、構音障害 (4)高齢者とのコミュニケーションの方法													
2.日常生活援助 1)活動	(1)活動性の変化と生活への影響 (2)基本的日常生活動作<BADL>と手段的日常生活動作<IADL>	・痛み、しびれ、心理・情緒機能、生活環境												

<p>講義内容 (概要)</p>	<p>(3)歩行・移動動作・姿勢保持のための援助  (4)転倒・転落の発生要因  (5)転倒・転落の防止  (6)転倒の影響  (7)廃用症候群: 病態と要因、予防のための援助</p> <p>2)食事  (1)食生活の状況  (2)嚥下能力、嗜好性、環境をふまえた食生活の援助  (3)咀嚼・嚥下障害  誤嚥性肺炎の予防と援助、食事摂取の自立困難な患者の援助、  嚥下障害のある患者の援助 【演習】嚥下食の実際</p> <p>3)排泄  (1)排泄の状況：尿失禁、便秘、下痢  (2)排泄能力の変化に応じた援助 【演習】失禁患者の皮膚粘膜の保護</p> <p>4)清潔  (1)皮膚障害 ・皮膚搔痒感 【演習】褥瘡予防ケア  (2)看護ケア 清潔行為のアセスメント、  更衣動作のアセスメント  入浴行動に伴う危険性、負担をふまえた  清潔・衣生活の援助</p> <p>5)活動と休息  (1)睡眠障害  (2)生活リズムの調整</p> <p>3.障害に対する看護  1)うつ病  2)せん妄  3)認知症(認知障害)  (1)加齢による病態と要因 (5)予防  (2)評価方法 (6)治療と援助  (3)コミュニケーション方法 (7)療法的アプローチ  (4)BPSP と生活への影響</p> <p>4.高齢者のリハビリテーションと看護  1)社会参加への援助 (1)国際生活機能分類&lt;ICF&gt;の概念  (2)社会参加・生活満足の要素と影響因子  2)高齢者にとってのリハビリテーションの意義  3)脳血管障害の症状と治療  4)生活とリハビリテーション ・寝たきり予防、転倒予防、誤嚥予防  5)機能障害と日常生活動作のアセスメント 【演習】嚥下訓練  5.リハビリテーションの実際  【演習】廃用症候群予防のための自動・他動運動、呼吸訓練、関節可動域訓練の実際 嚥下訓練</p> <p>6.高齢者のおもな疾患と看護  1)老人性白内障の主な症状・治療と看護  2)パーキンソン病の主な症状・治療と看護  3)大腿骨頸部骨折・転子部骨折の主な症状・治療と看護  4)脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)の主な症状・治療と看護  5)前立腺肥大症の主な症状・治療と看護  6)尿路感染症の主な症状・治療と看護  7)誤嚥性肺炎の治療と看護(低栄養含む)  8)脱水症の治療と看護  9)褥瘡の病態(評価)と看護(スキンケア含む)</p>
<p>評価方法</p>	<p>・筆記試験 ・課題</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>・系統看護学講座 老年看護学. 医学書院. 2019 *  ・編)山田律子、萩野悦子、内ヶ島伸也、井出訓：生活機能からみた老年看護過程、医学書院、2020 *  ・系統看護学講座&lt;別巻&gt;リハビリテーション看護、医学書院、2015 *</p>
<p>備考</p>	<p>実務経験有：医療機関にて看護業務、リハビリ業務経験有</p>

科目名	小児看護学 I (概論・保健)	単位数	時間	履修年次
		2	30	2年次前期
講師名	今野 秀子、吉田 友美	授業形態	講義	
ねらい	小児期の特徴と心身の成長発達や健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.ライフサイクルと小児看護の役割を理解できる。 2.小児保健の動向と医療・福祉対策を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.小児看護の特徴と理念 2.子どもの権利 3.小児の成長発達 4.小児と社会 5.母子保健行政 6.学校保健 7.衛生統計	1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割 3)小児看護と小児医療の変遷 1)子どもの権利と権利条約 2)アドボカシーとインフォームドコンセント 1)成長発達の原則と影響因子 2)形態的成長 3)機能的成長 4)心理社会的成長 5)発育発達評価 1)法律と政策 2)家族と家族役割 3)児童虐待 1)予防接種 2)健康診査 1)出生と家族 2)小児の死亡		
評価方法	・筆記試験 ・課題提出内容 ・授業態度			
使用テキスト	・系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院、2020 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			



科目名	小児看護学Ⅱ(成長発達を促す看護、 疾病・障害のある小児と家族の看護)	単位数 2	時間 60	履修年次 2年次後期
講師名	大竹口寿恵、吉田 友美、佐藤 亜紀子、 亀山 千里、渡辺 章充、大関 和恵、 高野 理恵子	授業形態	講義、演習	
ねらい	小児期の特徴と心身の成長発達や健康の保持・増進、健康上の課題を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.健康な小児の成長発達に応じた看護を理解できる。 2.健康課題を持つ小児の看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.基本的な生活習慣獲得への 援助 2.各期における養育と看護  3.疾病・障害を持つ小児と家 族の看護 4.慢性期における小児と家 族への看護 5.急性期における小児と家 族への看護 6.周手術期における小児と 家族への看護 7.終末期における小児と家 族への看護 8.症状を示す小児の看護  9.小児特有な疾患  10.フィジカルアセスメント  11.診療に伴う看護技術	1)乳児期 3)学童期 2)幼児期 4)思春期  1)食事と栄養 4)更衣と清潔 2)睡眠と休息 5)安全と事故予防 3)排泄 6)発達に合わせた遊びと学習支援 【演習】安全な養育環境の調整 1)小児の病気の理解と説明 2)病気や入院が小児、家族へ与える影響 1)慢性経過をたどる小児と家族の特徴 2)慢性特定疾患研究授業 1)急性的な経過をたどる小児と家族の特徴 2)受診時の看護(トリアージと感染対策) 1)小児の手術の特徴 2)プレパレーション 1)終末期にある小児と家族の特徴 2)小児の死の捉えと病気の説明 1)一般状態 2)痛み 3)呼吸循環症状 4)発熱 5)血液症状 6)神経・筋症状 1)先天性心疾患 2)川崎病 3)幽門狭窄症 4)痙攣 5)ネフローゼ症候群 6)腸重積・ヒルシュスプルング症(巨大腸) 7)気管支喘息 8)感染症 1)バイタルサイン測定 2)身体計測 1)経口与薬 2)注射・輸液 3)採血 4)採尿 5)骨髄穿刺 6)腰椎穿刺 7)固定 8)酸素療法 9)吸引 10)経管栄養 【演習】小児の検査、輸液時の看護		
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院、2020 * ・系統看護学講座 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論、医学書院、2020 * ・根拠と事故から見た小児看護技術、医学書院、2016 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有			

科目名	母性看護学 I (概論・保健)	単位数	時間	履修年次	
		2	30	2年次前期	
講師名	深澤 千映子	授業形態	講義		
ねらい	女性のライフサイクルを理解し、健康生活への維持・増進に向けた援助ができる能力を身につける。				
目標	1.女性のライフサイクルと母性看護の役割を理解できる。 2.母性保健の動向と医療・福祉対策を理解できる。				
講義内容 (概要)	1.人間の性と生殖 2.母性看護の主な概念 3.母性看護と倫理 4.女性のライフステージと看護 5.母子の健康生活と法律・制度	1)性の概念 2)性と生殖の機能のメカニズム 1)母性・父性・母性看護の概念 2)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 3)家族の発達・機能 1)対象の権利と擁護 2)自己決定の尊重 3)プライバシーの保護 4)人間の性の生殖や医療における倫理 1)思春期女性の特徴と看護： 第二性徴、性意識・性行動の発達、月経異常、性感染症(STD) 2)成熟期女性の特徴と看護： 家族計画、不妊症・不育症、女性生殖器の疾患、性暴力、 DV(ドメスティックバイオレンス)、児童虐待 3)更年期・老年期女性の特徴と看護： ホルモンの変化と閉経、更年期症状、骨盤臓器脱、老人性膣炎、 外陰炎 1)母子保健の統計指標 2)母性に関わる法律・制度 ・母子保健法、母体保護法、子育て支援施策 ・女性の就労の関係法規(外国人妊産婦への支援含む)			
評価方法	・筆記試験 ・課題				
使用テキスト	・系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論、医学書院、2021 * ・系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論、医学書院、2021 *				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、助産師業務経験有				

科目名	母性看護学Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		2	60	2年次後期
講師名	島袋 剛二、市川 麻以子、坂本 雅恵 大和田茂美、遠藤 香織	授業形態	講義、演習	
ねらい	女性のライフサイクルを理解し、健康生活への維持・増進に向けた援助ができる能力を身につける。			
目標	1.周産各期に応じた対象の看護を理解できる。 2.新生児期に応じた看護を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.妊娠の生理と異常 2.分娩の生理と異常 3.産褥の生理と病理 4.新生児の生理と病理 5.妊娠期の看護 6.分娩期の看護 7.産褥期の看護 8.新生児期の看護	1)妊娠の経過と胎児の発育：妊娠期の検査項目(初期、中期、後期) 2)妊娠の異常：妊娠期間の異常(流産・早産)、異所性妊娠、悪阻、感染症、血液型不適合、多胎、妊娠高血圧、常位胎盤早期剥離、妊娠糖尿病(糖尿病合併妊娠)、前置胎盤 1)分娩経過と胎児の健康状態：分娩Ⅱ期～Ⅳ期 2)分娩の異常：陣痛の異常、胎位・胎勢異常胎児の異常、胎盤・臍帯・羊水の異常、産科出血、産科ショック、DIC、産科手術 1)退行性変化・進行性変化：子宮復古、乳汁分泌 2)産褥の異常：子宮復古不全、産褥熱、産褥精神異常 1)新生児の生理 2)新生児の異常：呼吸・循環代謝の正常異常、出生前診断について 1)妊婦の心理 2)妊娠と不快症状 3)妊婦の日常生活とセルフケア 4)出産・育児の準備 1)産婦の基本的ニーズと看護 2)産痛の緩和 3)産婦と家族の心理 1)褥婦の心理 2)褥婦の日常生活とセルフケア 3)母乳育児への支援 4)親役割への支援 5)帝王切開術後の看護 6)死産、障害をもつ新生児を出産した親 1)新生児の栄養 2)新生児の保育環境	【演習】沐浴	
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論、医学書院、2021 *			
備考	実務経験有：医療機関にて助産師業務、看護業務、診療業務経験有			

科目名	精神看護学Ⅰ(概論・保健)	単位数	時間	履修年次
		2	45	1年次前期～後期
講師名	阿部 由美、石塚 明典	授業形態	講義	
ねらい	ライフサイクルにおける心の発達を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.ライフサイクルにおける心の発達と精神看護の役割を理解できる。 2.心の健康を守る精神保健活動を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.精神看護学とは <ul style="list-style-type: none"> <li>1)精神とは</li> <li>2)精神保健の目的</li> </ul> 2.精神保健の歴史・日本における法律の変遷：精神保健福祉法の概要 3.地域における精神保健と精神看護：生活を支える社会資源・サービス 4.こころと環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)脳とこころ：脳の仕組みと精神機能</li> <li>2)精神機能：こころの構造と発展過程</li> <li>3)自我の構造と機能</li> <li>4)意識・前意識・無意識</li> <li>5)不安と防衛機制</li> <li>6)危機とストレス対処方法</li> </ul> 5.発達理論とは：フロイト・エリクソンの発達理論 6.精神症状、統合失調症の病態 7.リエゾン精神看護 8.プロセスレコード：プロセスレコードとは、プロセスレコードの記述			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎、医学書院、2021 * ・系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開、医学書院、2021 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、精神保健福祉士業務経験有			

科目名	精神看護学Ⅱ(援助関係の振り返り)	単位数	時間	履修年次
		1	15	2年次前期
講師名	阿部 由美	授業形態	講義、演習	
ねらい	ライフサイクルにおける心の発達を理解し、援助できる能力を身につける。			
目標	1.精神的関わりとしての対人関係のあり方を理解できる。			
講義内容 (概要)	1.看護師－患者関係の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)患者理解の方法(信頼関係の基礎作り)</li> <li>2)看護師－患者関係のなりたち</li> <li>3)看護師－患者関係の発展過程</li> </ul> 2.再構成とは <ul style="list-style-type: none"> <li>1)異和感の対自化</li> <li>2)問題の明確化</li> <li>3)再構成の実際</li> </ul>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開、医学書院、2021 *			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	精神看護学Ⅲ(精神障害者の看護)	単位数	時間	履修年次										
		1	30	2年次後期										
講師名	井出 政行、岡田 清明	授業形態	講義、演習											
ねらい	ライフサイクルにおける心の発達を理解し、援助できる能力を身につける。													
目標	1.精神障害を持つ対象の看護が理解できる。													
講義内容 (概要)	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">1.精神症状の理解</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)感情の異常</li> <li>2)幻覚妄想状態</li> <li>3)意欲障害が関係する行動症候群</li> <li>4)器質性精神症候群</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2.主な精神疾患と看護</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)器質性精神疾患患者の看護</li> <li>2)依存症患者の看護</li> <li>3)てんかん患者の看護</li> <li>4)統合失調症患者の看護</li> <li>5)躁うつ病患者の看護</li> <li>6)神経症・心因反応がある患者の看護</li> <li>7)人格障害患者の看護</li> <li>8)児童期に情動障害がみられる患者の看護</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3.入院治療と看護の展開</td> <td style="vertical-align: top;">入院形態ならびに隔離、身体拘束、症状別看護、緊急事態への看護</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">4.身体をケアする地域 における精神看護</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1)制度の変遷</li> <li>2)障害者自立支援法</li> <li>3)地域での看護の実際</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">5.精神科以外での精神看護</td> <td></td> </tr> </table>				1.精神症状の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)感情の異常</li> <li>2)幻覚妄想状態</li> <li>3)意欲障害が関係する行動症候群</li> <li>4)器質性精神症候群</li> </ul>	2.主な精神疾患と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)器質性精神疾患患者の看護</li> <li>2)依存症患者の看護</li> <li>3)てんかん患者の看護</li> <li>4)統合失調症患者の看護</li> <li>5)躁うつ病患者の看護</li> <li>6)神経症・心因反応がある患者の看護</li> <li>7)人格障害患者の看護</li> <li>8)児童期に情動障害がみられる患者の看護</li> </ul>	3.入院治療と看護の展開	入院形態ならびに隔離、身体拘束、症状別看護、緊急事態への看護	4.身体をケアする地域 における精神看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)制度の変遷</li> <li>2)障害者自立支援法</li> <li>3)地域での看護の実際</li> </ul>	5.精神科以外での精神看護	
1.精神症状の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)感情の異常</li> <li>2)幻覚妄想状態</li> <li>3)意欲障害が関係する行動症候群</li> <li>4)器質性精神症候群</li> </ul>													
2.主な精神疾患と看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)器質性精神疾患患者の看護</li> <li>2)依存症患者の看護</li> <li>3)てんかん患者の看護</li> <li>4)統合失調症患者の看護</li> <li>5)躁うつ病患者の看護</li> <li>6)神経症・心因反応がある患者の看護</li> <li>7)人格障害患者の看護</li> <li>8)児童期に情動障害がみられる患者の看護</li> </ul>													
3.入院治療と看護の展開	入院形態ならびに隔離、身体拘束、症状別看護、緊急事態への看護													
4.身体をケアする地域 における精神看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>1)制度の変遷</li> <li>2)障害者自立支援法</li> <li>3)地域での看護の実際</li> </ul>													
5.精神科以外での精神看護														
評価方法	・筆記試験													
使用テキスト	・系統看護学講座 精神看護学 [1] 精神看護の基礎、医学書院、2021 * ・系統看護学講座 精神看護学 [2] 精神看護の展開、医学書院、2021 *													
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務、診療業務経験有													

## 統合分野(12 単位 360 時間)

### 1.ねらい

臨床の実務に近い看護の内容や方法を学ぶ。

### 2.科目構成

	科目名	単位数	時間数	履修年次	項
在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	2	30	2年次	45
	在宅看護論Ⅱ	2	60	2年次	46
看護の統合と実践	チーム医療	1	15	3年次	48
	医療安全Ⅰ	1	15	3年次	49
	医療安全Ⅱ	1	30	3年次	
	災害看護	1	30	3年次	50
臨地実習 在宅看護論	在宅看護論実習	2	90	3年次	
看護の統合と実践	統合Ⅰ実習	1	45	3年次	
	統合Ⅱ実習	1	45	3年次	
		12	360		

\*実習については、実習要項を参照。

科目名	在宅看護論 I	単位数	時間	履修年次
		2	30	2年次前期
講師名	飯塚 祐子、吉田 薫	授業形態	講義、演習	
ねらい	生活の場で療養する人とその家族に対して、看護を展開するための基礎的能力を身につける。			
目標	1.生活の場で療養する人とその家族を理解できる。			
講義内容 (概要)	<p>1.在宅看護の目的と特徴</p> <p>1)社会的背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)人口構成の変化</li> <li>(2)国民の価値観</li> <li>(3)社会保障費</li> <li>(4)生活の場</li> </ul> <p>療養の場、生活の場の種類、生活様式と価値観 施設内看護との違い在宅看護の意義、在宅の条件</p> <p>2)在宅看護における看護師の役割と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)QOL の理解</li> <li>(2)セルフケア</li> <li>(3)社会参加への援助：ヘルスアセスメント、病状経過の予測</li> </ul> <p>3)在宅看護における倫理的課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)自己決定支援</li> <li>(2)権利擁護</li> <li>(3)サービス提供者の権利擁護</li> <li>(4)虐待の防止</li> <li>(5)情報管理</li> </ul> <p>4)地域看護活動における在宅看護の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域看護の概念</li> <li>・地域看護活動の機能と役割</li> <li>・地域看護の実践される場と活動分野</li> </ul> <p>2.地域保健医療福祉と在宅看護</p> <p>1)地域保健医療福祉活動と在宅ケア</p> <p>2)地域における地域看護活動の変遷と現状</p> <p>(1)社会資源の活用：在宅医療・介護に関する仕組み、疾病や障害を抱えた人の社会参加</p> <p>3.在宅看護の展開</p> <p>1)在宅看護過程展開のポイント</p> <p>(1)在宅療養者の状態に合わせた看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・状態や居住環境のアセスメントと環境整備</li> <li>・療養者・家族のセルフマネジメントを維持・高める支援</li> <li>・異常の早期発見と対応、社会資源の活用・調整、合併症の予防・対応</li> </ul> <p>2)対象者(家族を含む)の権利保障 ・個人の尊厳、自己決定権</p> <p>【演習】介護保険における居宅介護サービス 計画作成の実際</p>			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論、メディカ出版、2021			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	在宅看護論Ⅱ (在宅看護活動、在宅看護の実際)	単位数	時間	履修年次																				
		2	60	2年次後期																				
講師名	長島 芳美、玉主 祥子、西連寺 信枝 柳橋 貴子、井坂 尚美	授業形態	講義、演習																					
ねらい	生活の場で療養する人とその家族に対して、看護を展開するための基礎的能力を身につける。																							
目標	1.在宅看護活動の内容を理解できる。 2.在宅における看護実践について理解できる。 3.地域における看護の役割について理解できる。																							
講義内容 (概要)	<table border="1"> <tr> <td>1.在宅看護活動</td> <td>(1)在宅看護の目的と機能:訪問看護の変遷、課題 (2)看護と介護 (1)訪問看護の機能と効果 (2)制度による訪問看護活動 医療保険・介護保険、障害者総合支援法、高齢者医療 (3)保健医療福祉機関による訪問看護活動 (4)医療機関による訪問看護 (5)訪問看護ステーションによる訪問看護 開設基準、サービス開始までの流れ、展開、サービスの質の保障、サービスの管理・経営</td> </tr> <tr> <td>2.在宅看護における安全性の確保</td> <td>1)感染予防:訪問看護での手洗い、周囲の環境対策、医療廃棄物の処理、感染事故発生時の対応 2)在宅看護におけるリスクの特徴 家屋環境の整備、医療事故防止、薬物による医療事故防止、誤嚥・窒息・熱傷・凍傷・熱中症の防止、転倒・転落防止、閉じこもり防止、独居高齢者と火災予防</td> </tr> <tr> <td>3.保健医療福祉対策と在宅看護</td> <td>1)保健医療福祉対策と高齢者保健福祉対策：地域包括ケア 2)在宅ケア提供施設とその活動 3)在宅ケア体制と看護活動</td> </tr> <tr> <td>4.チームケアの重要性</td> <td>1)在宅チームケアの意義 ・他職種との連携・協働</td> </tr> <tr> <td>5.ケアマネジメントと看護の役割</td> <td>1)ケアマネジメントの概念・過程：社会資源の活用 2)サービスの調整：介護保険との関連</td> </tr> <tr> <td>6.疾患別在宅看護の実際</td> <td>1)身体に障害がある人へのケア 2)難病のある人へのケア 3)精神障害のある人へのケア 4)認知症のある人へのケア 5)終末期を迎えた人へのケア 症状マネジメント、緩和ケアの実際、看取りの看護、家族へのグリーフケア</td> </tr> <tr> <td>7.看護の継続</td> <td>(1)療養の場の意向に伴う看護 (2)医療機関との連携</td> </tr> <tr> <td>8.在宅看護の対象とその生活</td> <td>(1)退院調整のプロセス (2)入退院に関する患者・家族の意思決定支援 (3)入退所に関する患者・家族の意思決定支援</td> </tr> <tr> <td>1)対象者の特徴</td> <td>(1)地域連携パスの理解 (2)継続看護：外来の特徴、外来看護の役割、健康管理センター (3)入所・通所施設での看護</td> </tr> <tr> <td>2)ケアの単位としての家族</td> <td>(1)疾病をもつ人と家族 (2)障害をもつ人と家族 (3)年齢層、健康レベルから見た対象 (4)疾病、障害を持つ対象 (1)家族とは:家族の変遷、現代の家族の特徴 (2)家族を捉える視点:家族の負担 (3)看護師の役割、家族関係の調整、ケア方法の指導、介護者の健康、レスパイトケア</td> </tr> </table>				1.在宅看護活動	(1)在宅看護の目的と機能:訪問看護の変遷、課題 (2)看護と介護 (1)訪問看護の機能と効果 (2)制度による訪問看護活動 医療保険・介護保険、障害者総合支援法、高齢者医療 (3)保健医療福祉機関による訪問看護活動 (4)医療機関による訪問看護 (5)訪問看護ステーションによる訪問看護 開設基準、サービス開始までの流れ、展開、サービスの質の保障、サービスの管理・経営	2.在宅看護における安全性の確保	1)感染予防:訪問看護での手洗い、周囲の環境対策、医療廃棄物の処理、感染事故発生時の対応 2)在宅看護におけるリスクの特徴 家屋環境の整備、医療事故防止、薬物による医療事故防止、誤嚥・窒息・熱傷・凍傷・熱中症の防止、転倒・転落防止、閉じこもり防止、独居高齢者と火災予防	3.保健医療福祉対策と在宅看護	1)保健医療福祉対策と高齢者保健福祉対策：地域包括ケア 2)在宅ケア提供施設とその活動 3)在宅ケア体制と看護活動	4.チームケアの重要性	1)在宅チームケアの意義 ・他職種との連携・協働	5.ケアマネジメントと看護の役割	1)ケアマネジメントの概念・過程：社会資源の活用 2)サービスの調整：介護保険との関連	6.疾患別在宅看護の実際	1)身体に障害がある人へのケア 2)難病のある人へのケア 3)精神障害のある人へのケア 4)認知症のある人へのケア 5)終末期を迎えた人へのケア 症状マネジメント、緩和ケアの実際、看取りの看護、家族へのグリーフケア	7.看護の継続	(1)療養の場の意向に伴う看護 (2)医療機関との連携	8.在宅看護の対象とその生活	(1)退院調整のプロセス (2)入退院に関する患者・家族の意思決定支援 (3)入退所に関する患者・家族の意思決定支援	1)対象者の特徴	(1)地域連携パスの理解 (2)継続看護：外来の特徴、外来看護の役割、健康管理センター (3)入所・通所施設での看護	2)ケアの単位としての家族	(1)疾病をもつ人と家族 (2)障害をもつ人と家族 (3)年齢層、健康レベルから見た対象 (4)疾病、障害を持つ対象 (1)家族とは:家族の変遷、現代の家族の特徴 (2)家族を捉える視点:家族の負担 (3)看護師の役割、家族関係の調整、ケア方法の指導、介護者の健康、レスパイトケア
1.在宅看護活動	(1)在宅看護の目的と機能:訪問看護の変遷、課題 (2)看護と介護 (1)訪問看護の機能と効果 (2)制度による訪問看護活動 医療保険・介護保険、障害者総合支援法、高齢者医療 (3)保健医療福祉機関による訪問看護活動 (4)医療機関による訪問看護 (5)訪問看護ステーションによる訪問看護 開設基準、サービス開始までの流れ、展開、サービスの質の保障、サービスの管理・経営																							
2.在宅看護における安全性の確保	1)感染予防:訪問看護での手洗い、周囲の環境対策、医療廃棄物の処理、感染事故発生時の対応 2)在宅看護におけるリスクの特徴 家屋環境の整備、医療事故防止、薬物による医療事故防止、誤嚥・窒息・熱傷・凍傷・熱中症の防止、転倒・転落防止、閉じこもり防止、独居高齢者と火災予防																							
3.保健医療福祉対策と在宅看護	1)保健医療福祉対策と高齢者保健福祉対策：地域包括ケア 2)在宅ケア提供施設とその活動 3)在宅ケア体制と看護活動																							
4.チームケアの重要性	1)在宅チームケアの意義 ・他職種との連携・協働																							
5.ケアマネジメントと看護の役割	1)ケアマネジメントの概念・過程：社会資源の活用 2)サービスの調整：介護保険との関連																							
6.疾患別在宅看護の実際	1)身体に障害がある人へのケア 2)難病のある人へのケア 3)精神障害のある人へのケア 4)認知症のある人へのケア 5)終末期を迎えた人へのケア 症状マネジメント、緩和ケアの実際、看取りの看護、家族へのグリーフケア																							
7.看護の継続	(1)療養の場の意向に伴う看護 (2)医療機関との連携																							
8.在宅看護の対象とその生活	(1)退院調整のプロセス (2)入退院に関する患者・家族の意思決定支援 (3)入退所に関する患者・家族の意思決定支援																							
1)対象者の特徴	(1)地域連携パスの理解 (2)継続看護：外来の特徴、外来看護の役割、健康管理センター (3)入所・通所施設での看護																							
2)ケアの単位としての家族	(1)疾病をもつ人と家族 (2)障害をもつ人と家族 (3)年齢層、健康レベルから見た対象 (4)疾病、障害を持つ対象 (1)家族とは:家族の変遷、現代の家族の特徴 (2)家族を捉える視点:家族の負担 (3)看護師の役割、家族関係の調整、ケア方法の指導、介護者の健康、レスパイトケア																							



講義内容 (概要)	<p>9.在宅療養者と家族に対する援助</p> <p>1)援助の過程</p> <p>2)訪問看護の方法</p> <p>3)相談(所内・院内)</p> <p>4)電話による相談・援助</p> <p>5)看護者に対する援助</p> <p>10.在宅看護の技術とは</p> <p>1)食事・栄養 (1)食事摂取能力のアセスメント (2)食事内容の選択、食材の調達の方法に関する援助 (3)栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助</p> <p>2)排泄 (1)排泄障害のアセスメント (2)排泄補助用具の種類と選択方法 (3)尿失禁・便失禁の予防と援助 (4)便秘の予防と援助</p> <p>3)清潔 (1)清潔のアセスメント (2)在宅での清潔方法の種類と方法</p> <p>4)移動 (1)日常生活動作(ADL/IADL)のアセスメント (2)移動時の安全確保 (3)移動補助用具の種類と選択方法 (4)自立歩行に必要な筋力評価と強化方法</p> <p>11.医療管理を必要とする人の看護：対象者、合併症の予防、在宅における安全管理と支援</p> <p>1)薬物療法(医師および薬剤師との連携)</p> <p>2)在宅酸素療法:機器の種類</p> <p>3)排泄障害(膀胱留置カテーテル法)</p> <p>4)経管栄養・経腸栄養法:栄養剤の種類と特徴、栄養評価</p> <p>5)中心静脈栄養法:栄養剤の注入方法、栄養評価</p> <p>6)褥瘡:褥瘡発生のリスクアセスメント 発生予防、処置、除圧・体位変換に関する器具の種類と選択</p> <p>7)気管切開、人工呼吸療法：人工呼吸器の原理・構造、気道浄化ケア</p> <p>8)感染症</p> <p>9)緊急時のケア</p> <p>10)家庭におけるリハビリテーション</p> <p>【演習】在宅での洗髪・髭剃り・爪切りの実際</p>
評価方法	・筆記試験
使用テキスト	・ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論、メディカ出版、2021
備考	実務経験有:医療機関にて看護業務経験有



科目名	医療安全Ⅰ	単位数	時間	履修年次
		1	15	3年次前期
講師名	木上 春美	授業形態	講義	
ねらい	医療安全の概念を理解し、事故の要因と防止について学ぶ。			
目標	1.医療安全の概念が理解できる。			
講義内容 (概要)	1.医療安全の概念と安全管理対策 2.ヒューマンエラー 3.事故の構造と分類 4.事故の分析手法 1)PMSHELL モデルによる分析 5.医療安全に関する法的責任 6.医療安全に関する看護倫理 7.事故発生時の対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)インシデント/アクシデント報告</li> <li>2)発生後の対処方法</li> </ul> 8.医療における事故防止体制の構築・システムの改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)自己モニタリングの活用</li> <li>2)労働条件・労働環境の改善</li> <li>3)看護医療システムの改善</li> </ul> 9.事故防止の実際 投与業務(注射、内服、輸血、経管栄養 etc.)、スキンテア、個人情報漏えい			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全、医学書院、2018 *			
備考	実務経験有:医療機関にて看護業務経験有			

科目名	医療安全Ⅱ	単位数	時間	履修年次
		1	30	3年次前期～後期
講師名	永山 美子	授業形態	講義、演習	
ねらい	医療安全の概念を理解し、事故の要因と防止について学ぶ。			
目標	1.安全な看護実践に必要な能力が理解できる。 2.安全な看護を提供するための判断力と実践する力を高めることができる。			
講義内容 (概要)	1.ヒューマンエラーの考え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)エラーに関係のある人間の特性</li> <li>2)ヒューマンファクター工学</li> <li>3)ヒューマンエラー対策の戦略と戦術</li> </ul> 2.事故につながりやすい技術とその対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)誤与薬の起こりやすい状況と対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)薬剤関連のエラーと危険性への認識</li> <li>(2)安全で確実な点滴静脈内注射、輸液ポンプの取り扱い</li> <li>(3)点滴静脈内注射実施上の危険因子</li> <li>(4)輸血業務と事故防止</li> <li>(5)ハイリスク状況での点滴静脈内注射</li> </ul> </li> <li>2)転倒・転落の起こりやすい状況と対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)転倒・転落の要因</li> <li>(2)転倒・転落事故防止と援助の実際</li> </ul> </li> <li>3)チューブライトラブルの起こりやすい状況と対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)チューブ類挿入中の主なトラブルとその要因</li> <li>(2)カテーテル・ドレーンを挿入している人の事故防止</li> </ul> </li> </ul> 3.リスクアセスメントとリスク回避の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)自分も事故を起こす存在である</li> <li>2)自己モニタリング・メタ認知の必要性</li> <li>3)医療安全とコミュニケーション</li> </ul> 【演習】事故の原因分析と対策、根本原因分析(RCA)、危険予知トレーニング			
評価方法	・筆記試験			
使用テキスト	・系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全、医学書院、2018 *			
備考	実務経験有:医療機関にて看護業務経験有			

科目名	災害看護	単位数	時間	履修年次																																																
		1	30	3年次前期～後期																																																
講師名	井川 洋子、藤岡 裕子	授業形態	講義、演習																																																	
ねらい	災害看護を通して、人々の健康と生活の向上に向けた社会への支援について学ぶ。																																																			
目標	1.災害看護の概念を理解できる。 2.災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解できる。 3.国際看護について理解できる。																																																			
講義内容 (概要)	1.災害看護を学ぶにあたって <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)災害の定義</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)災害看護の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">3)災害看護の原則</td> <td></td> </tr> </table> 2.災害看護の歩み、災害医療の基礎知識 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)災害の種類と健康被害</td> <td>               (1)災害の種類                (2)災害と健康障害                (3)災害と感染防御             </td> </tr> </table> 3.災害医療の特徴 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)災害時の医療の考え方</td> <td>(1) CSCATTT</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)災害医療実施のための体系的なアプローチ</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">3)トリアージ</td> <td>【演習】トリアージ演習問題：4色カード</td> </tr> </table> 4.災害医療の特徴 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)災害サイクルから考える災害医療</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)我が国の災害医療対応の整備</td> <td>               (1)災害拠点病院 (4)DPAT                (2)救護所 (5)DHEA                (3)DMAT             </td> </tr> </table> 5.マスクギャザリングとNBC災害への対応 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)マスクギャザリング</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)NBC災害(CBRNE災害)</td> <td></td> </tr> </table> 6.災害と情報 — 組織間連携 7.災害看護と法律 8.近年の災害における課題・対策 9.災害看護の基礎知識 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)災害看護の定義</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)災害看護の対象</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">3)災害サイクルと災害看護</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">4)災害看護に必要な情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">5)災害看護活動におけるアセスメント</td> <td></td> </tr> </table> 10.災害サイクルに応じた活動別の災害看護 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)急性期・亜急性期：救護所の立ち上げまで</td> <td>・避難所における健康と生活支援</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)慢性期・復興期</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">3)静穏期</td> <td></td> </tr> </table> 11.災害とこころのケア 12.災害時の看護活動 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)搬送法</td> <td>               (1)毛布使用方法                (2)人力で搬送する方法                (3)担架を用いる方法             </td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)包帯法・止血法・固定法</td> <td>               (1)三角布の使用方法                (2)包帯の巻き方                (3)副子の使用方法                (4)直接圧迫止血法、間接圧迫止血法             </td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">3)心肺蘇生法・AED</td> <td></td> </tr> </table> 【演習】止血法、包帯法の実際、固定法の実際、搬送法(担架)の実際、CPRの実際(救急隊) 13.国際救援活動 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">1)国際救援活動とは</td> <td>               (1)災害マネジメント                (2)基本理念             </td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;">2)国際救援活動の現状と課題</td> <td>               (1)災害の現状                (2)国際的な組織                (3)看護の役割             </td> </tr> </table>				1)災害の定義		2)災害看護の役割		3)災害看護の原則		1)災害の種類と健康被害	(1)災害の種類 (2)災害と健康障害 (3)災害と感染防御	1)災害時の医療の考え方	(1) CSCATTT	2)災害医療実施のための体系的なアプローチ		3)トリアージ	【演習】トリアージ演習問題：4色カード	1)災害サイクルから考える災害医療		2)我が国の災害医療対応の整備	(1)災害拠点病院 (4)DPAT (2)救護所 (5)DHEA (3)DMAT	1)マスクギャザリング		2)NBC災害(CBRNE災害)		1)災害看護の定義		2)災害看護の対象		3)災害サイクルと災害看護		4)災害看護に必要な情報		5)災害看護活動におけるアセスメント		1)急性期・亜急性期：救護所の立ち上げまで	・避難所における健康と生活支援	2)慢性期・復興期		3)静穏期		1)搬送法	(1)毛布使用方法 (2)人力で搬送する方法 (3)担架を用いる方法	2)包帯法・止血法・固定法	(1)三角布の使用方法 (2)包帯の巻き方 (3)副子の使用方法 (4)直接圧迫止血法、間接圧迫止血法	3)心肺蘇生法・AED		1)国際救援活動とは	(1)災害マネジメント (2)基本理念	2)国際救援活動の現状と課題	(1)災害の現状 (2)国際的な組織 (3)看護の役割
1)災害の定義																																																				
2)災害看護の役割																																																				
3)災害看護の原則																																																				
1)災害の種類と健康被害	(1)災害の種類 (2)災害と健康障害 (3)災害と感染防御																																																			
1)災害時の医療の考え方	(1) CSCATTT																																																			
2)災害医療実施のための体系的なアプローチ																																																				
3)トリアージ	【演習】トリアージ演習問題：4色カード																																																			
1)災害サイクルから考える災害医療																																																				
2)我が国の災害医療対応の整備	(1)災害拠点病院 (4)DPAT (2)救護所 (5)DHEA (3)DMAT																																																			
1)マスクギャザリング																																																				
2)NBC災害(CBRNE災害)																																																				
1)災害看護の定義																																																				
2)災害看護の対象																																																				
3)災害サイクルと災害看護																																																				
4)災害看護に必要な情報																																																				
5)災害看護活動におけるアセスメント																																																				
1)急性期・亜急性期：救護所の立ち上げまで	・避難所における健康と生活支援																																																			
2)慢性期・復興期																																																				
3)静穏期																																																				
1)搬送法	(1)毛布使用方法 (2)人力で搬送する方法 (3)担架を用いる方法																																																			
2)包帯法・止血法・固定法	(1)三角布の使用方法 (2)包帯の巻き方 (3)副子の使用方法 (4)直接圧迫止血法、間接圧迫止血法																																																			
3)心肺蘇生法・AED																																																				
1)国際救援活動とは	(1)災害マネジメント (2)基本理念																																																			
2)国際救援活動の現状と課題	(1)災害の現状 (2)国際的な組織 (3)看護の役割																																																			
評価方法	・筆記試験																																																			
使用テキスト	・系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学、医学書院、2019 *																																																			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有																																																			

